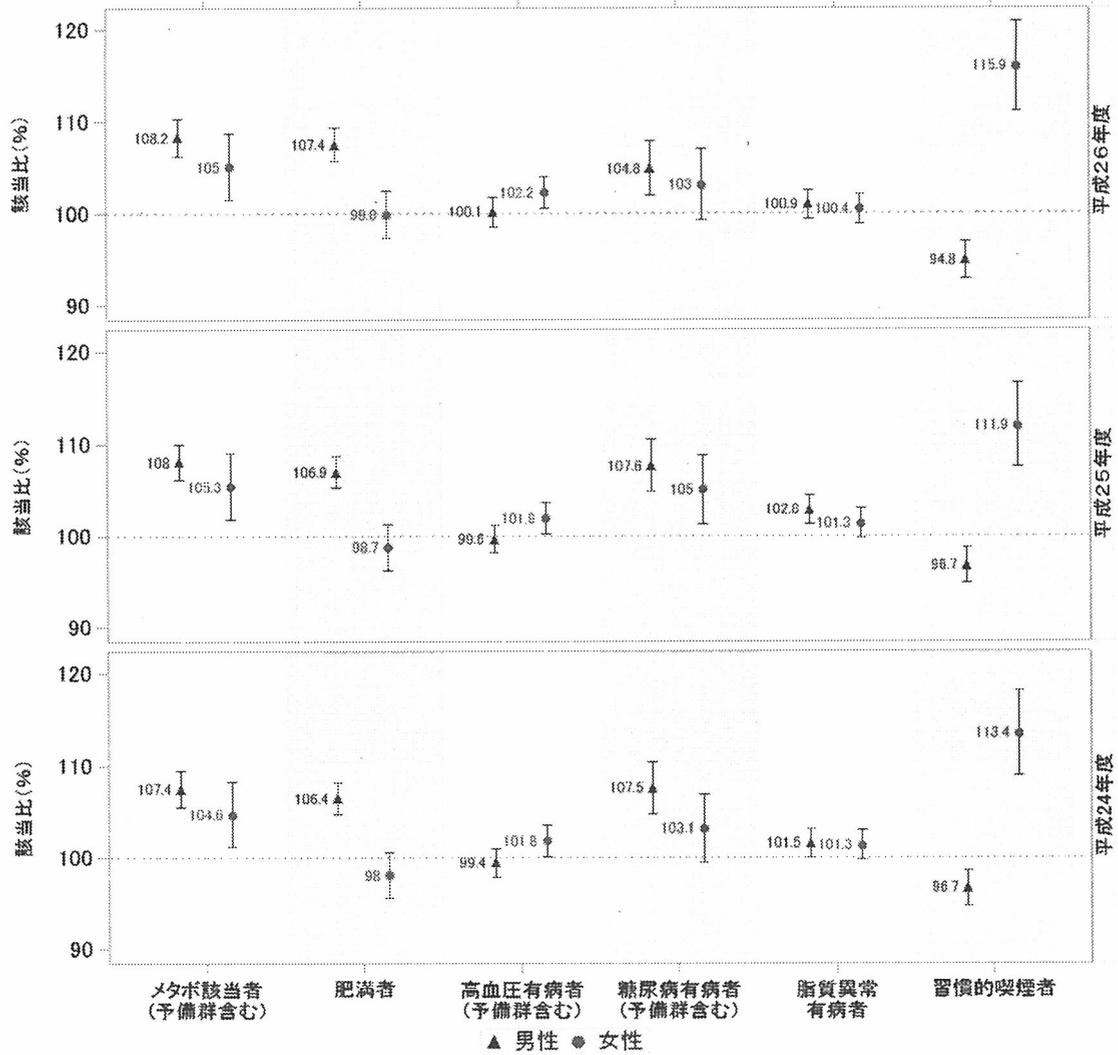


### 同一地域における標準化該当比の比較(岐阜市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

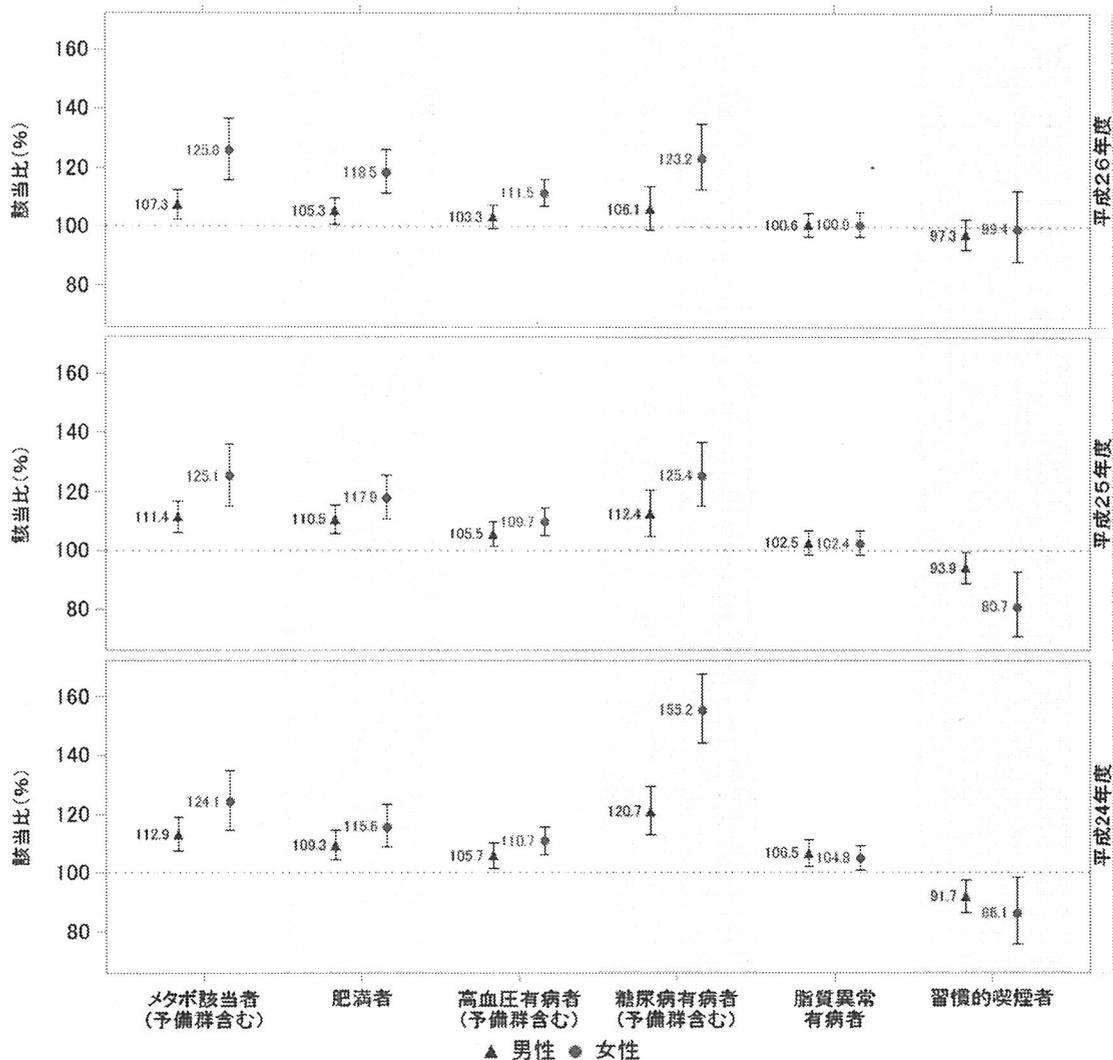
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限=100」の時・・・低い有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高い有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高い有意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(羽島市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

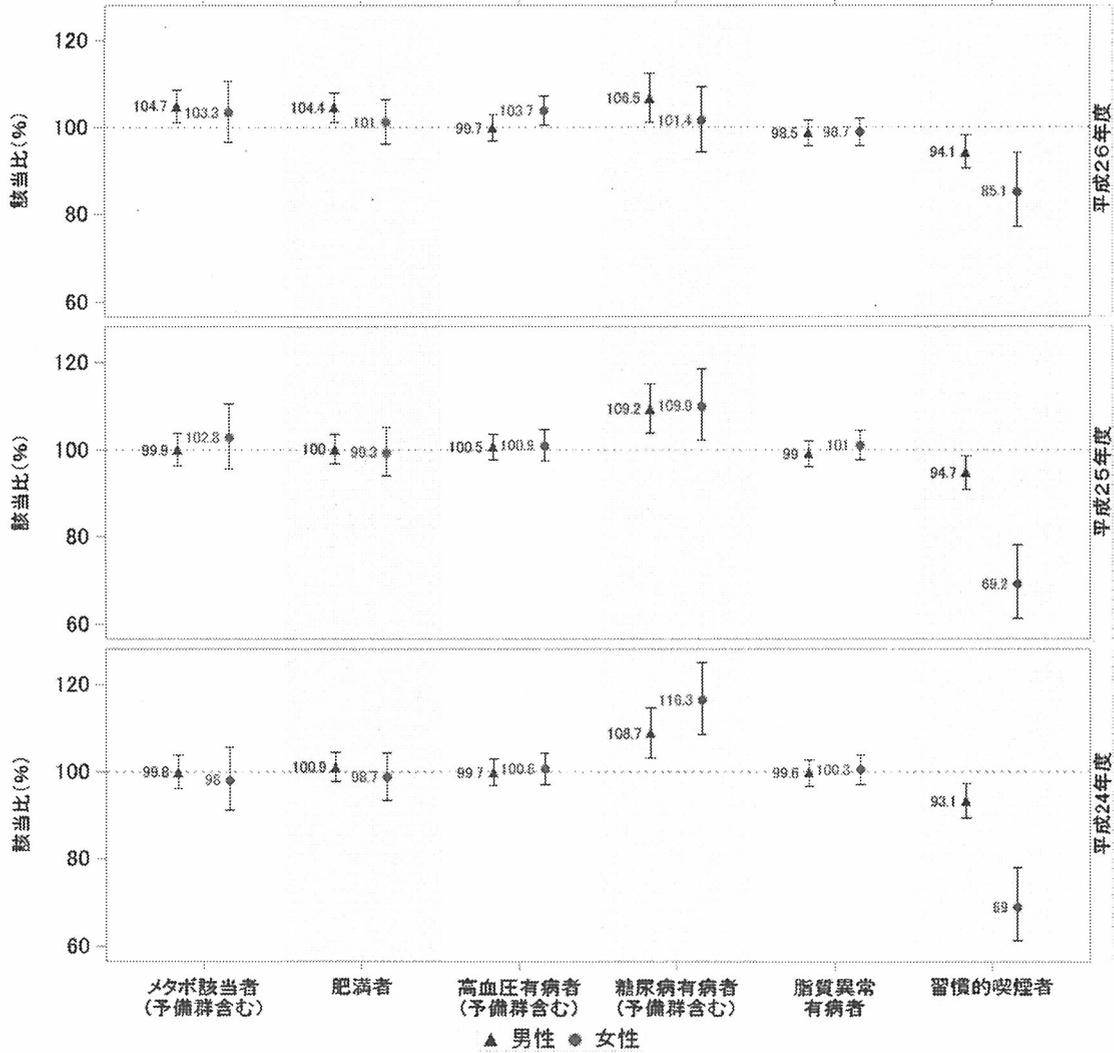
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

同一地域における標準化該当比の比較(各務原市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

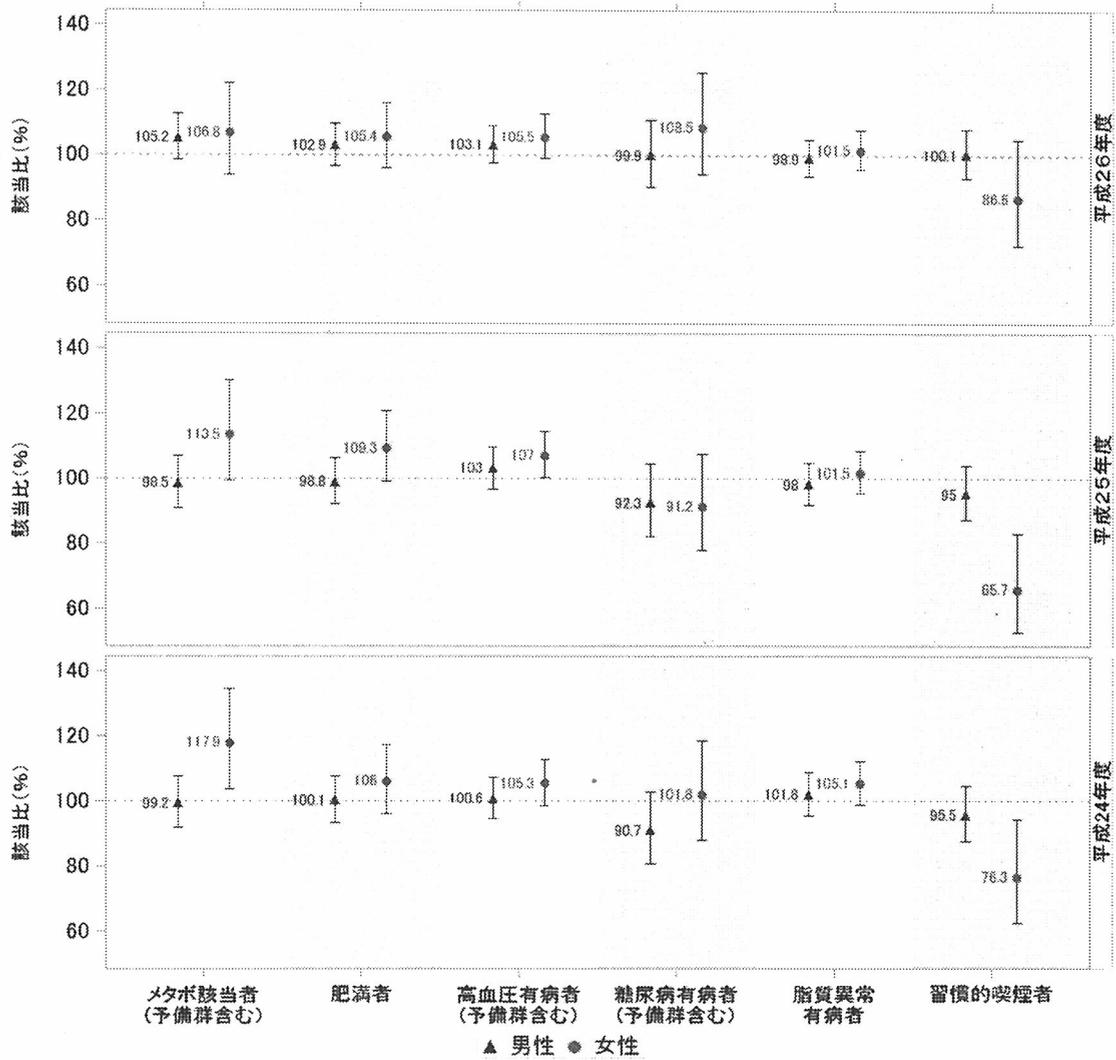
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(山県市)

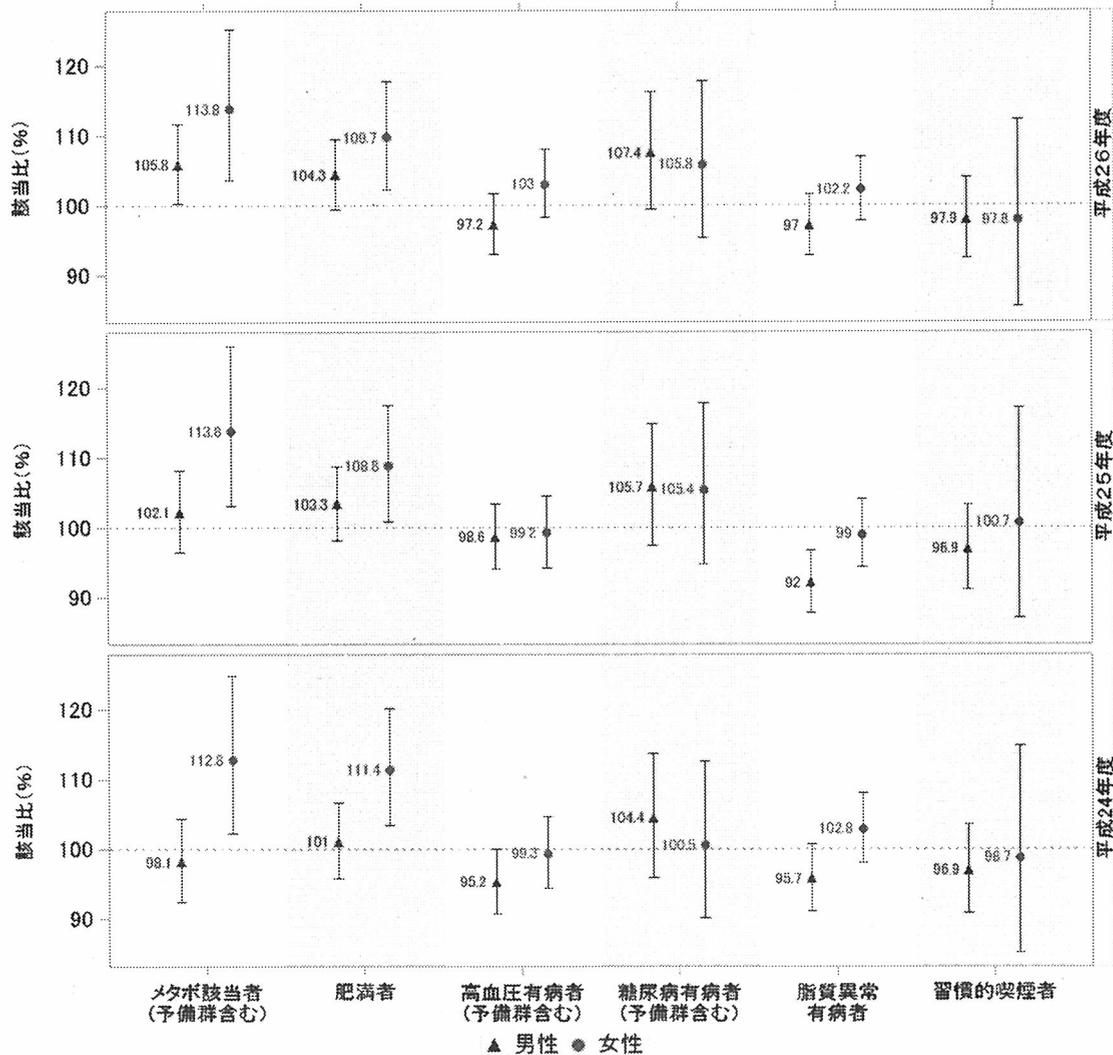


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(瑞穂市)

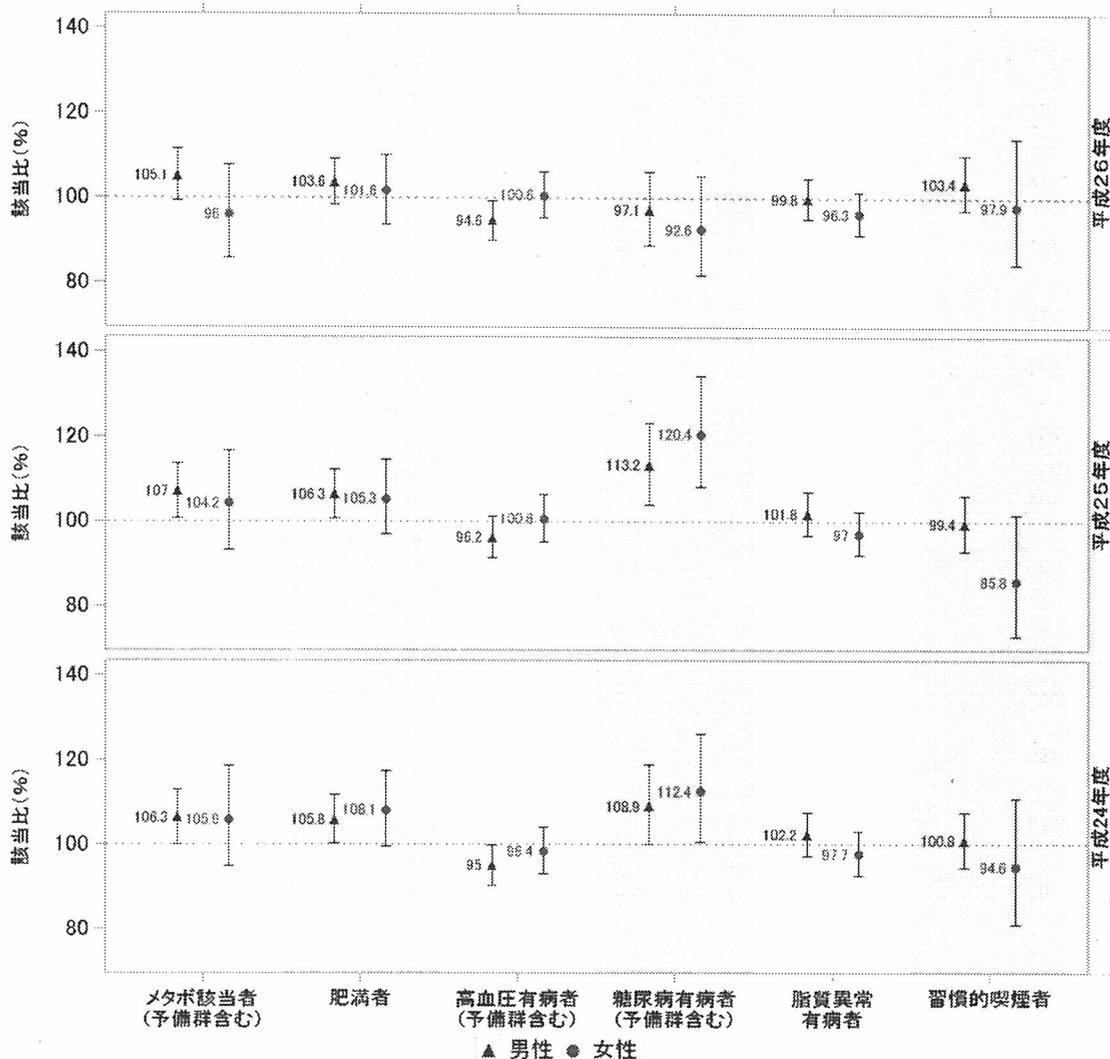


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限=100」の時・・・低いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限=100」の時・・・高いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(本巢市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

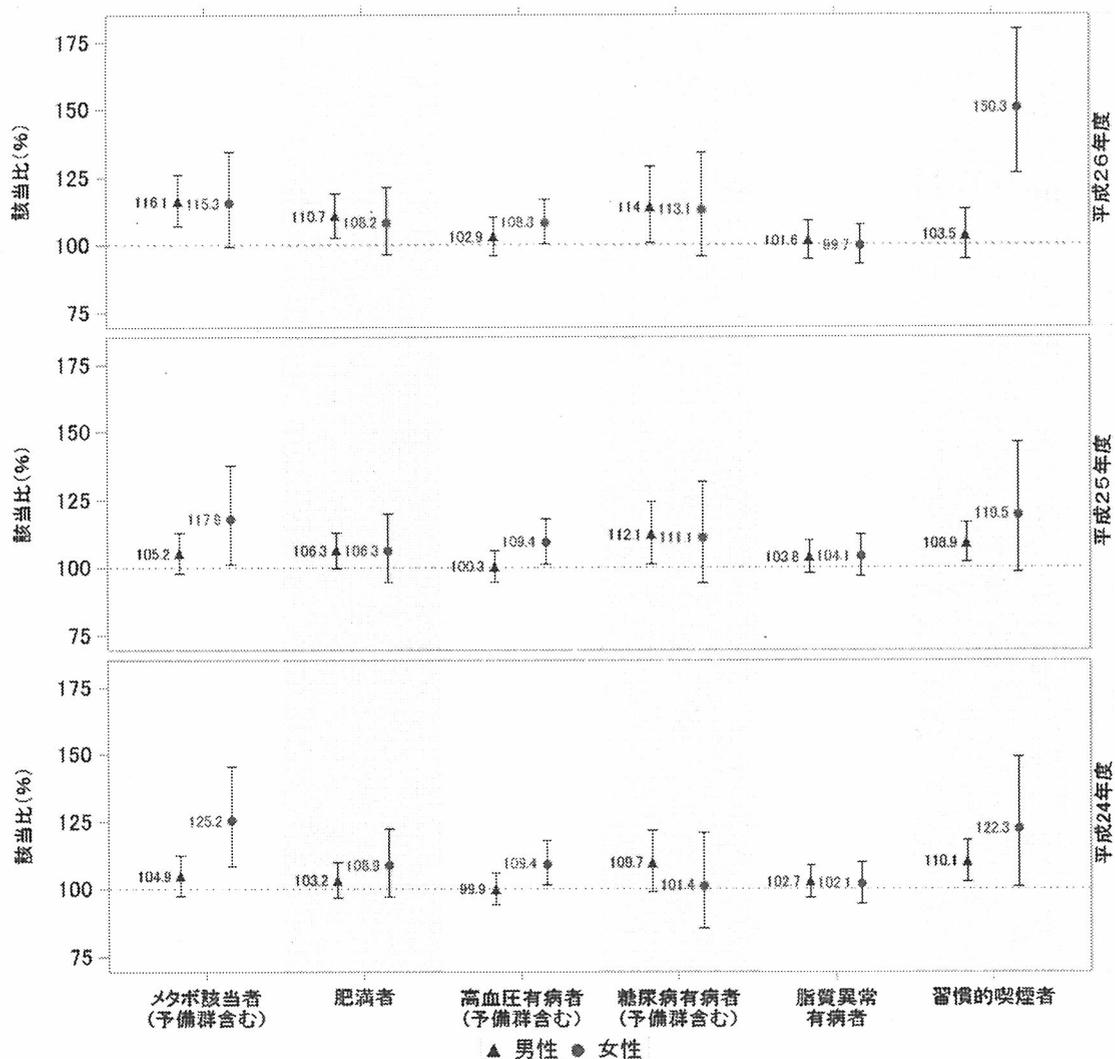
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(岐南町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

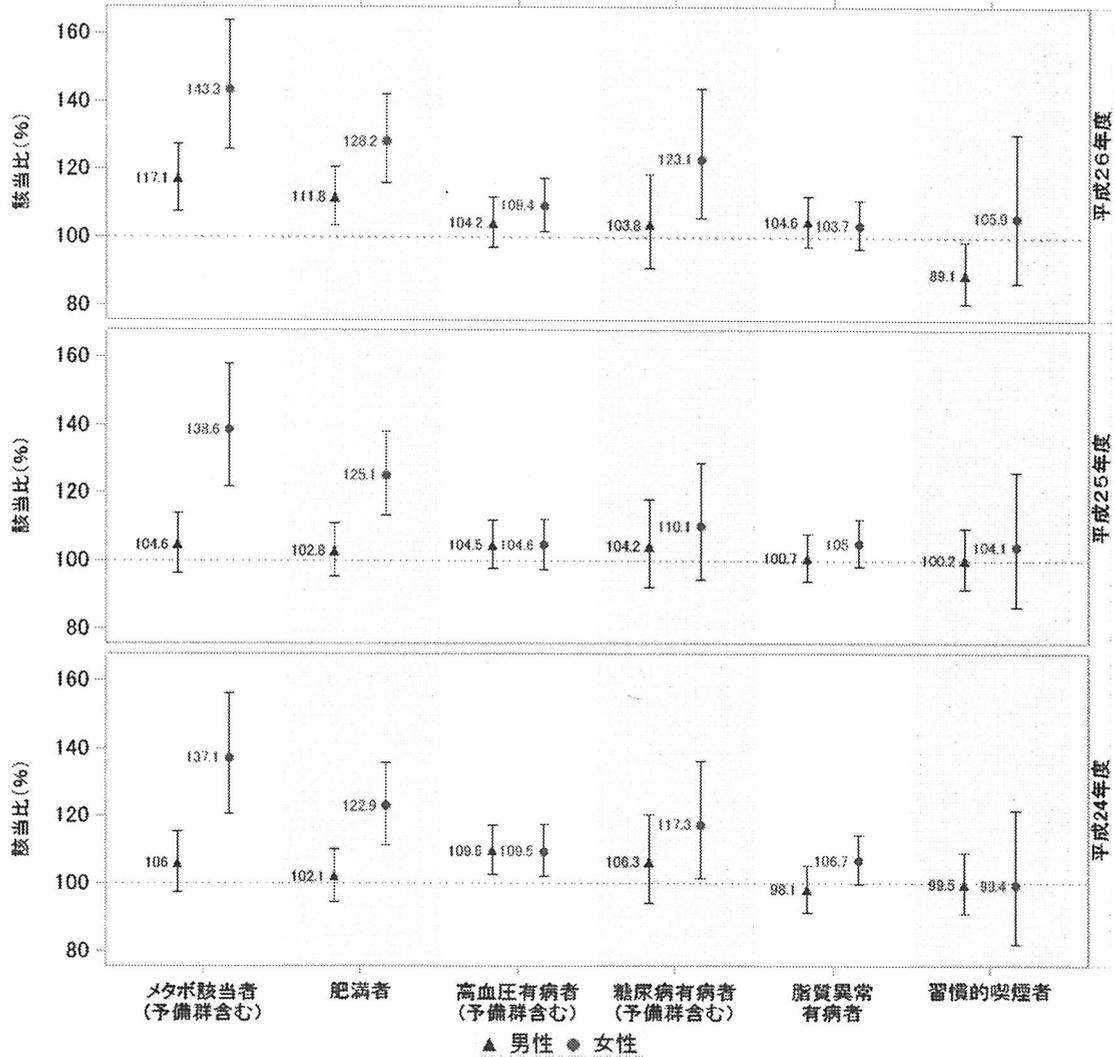
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(笠松町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

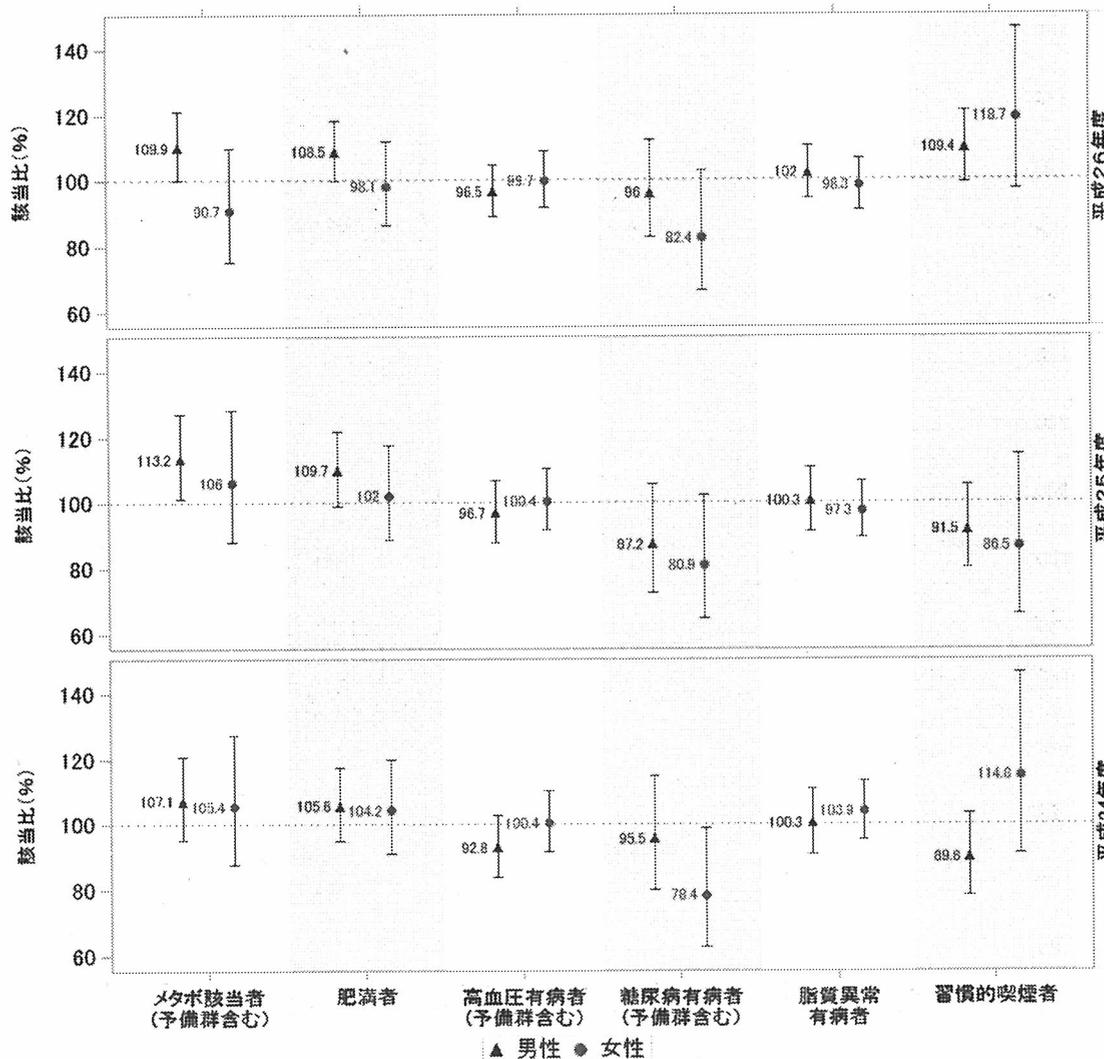
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(北方町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

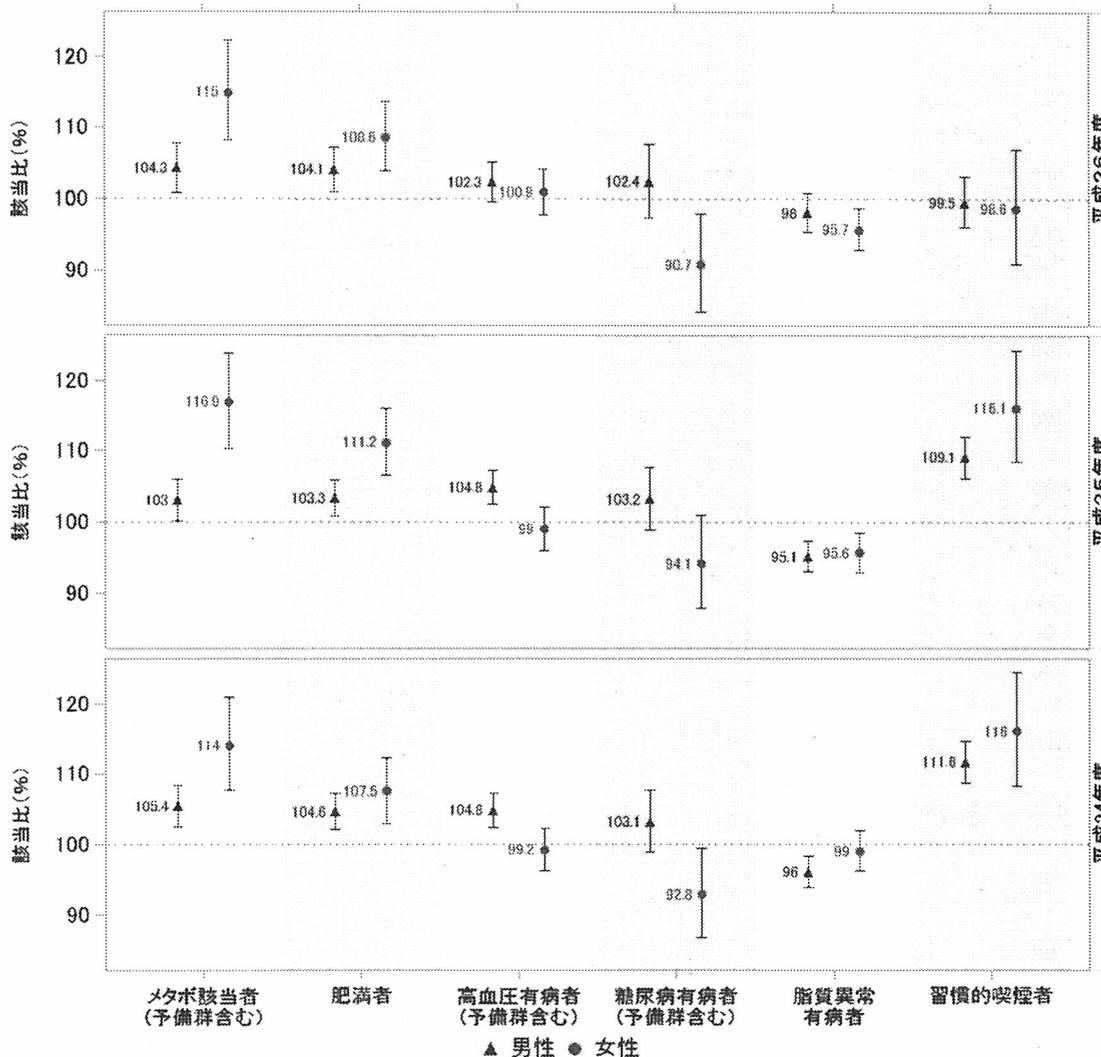
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

同一地域における標準化該当比の比較(大垣市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

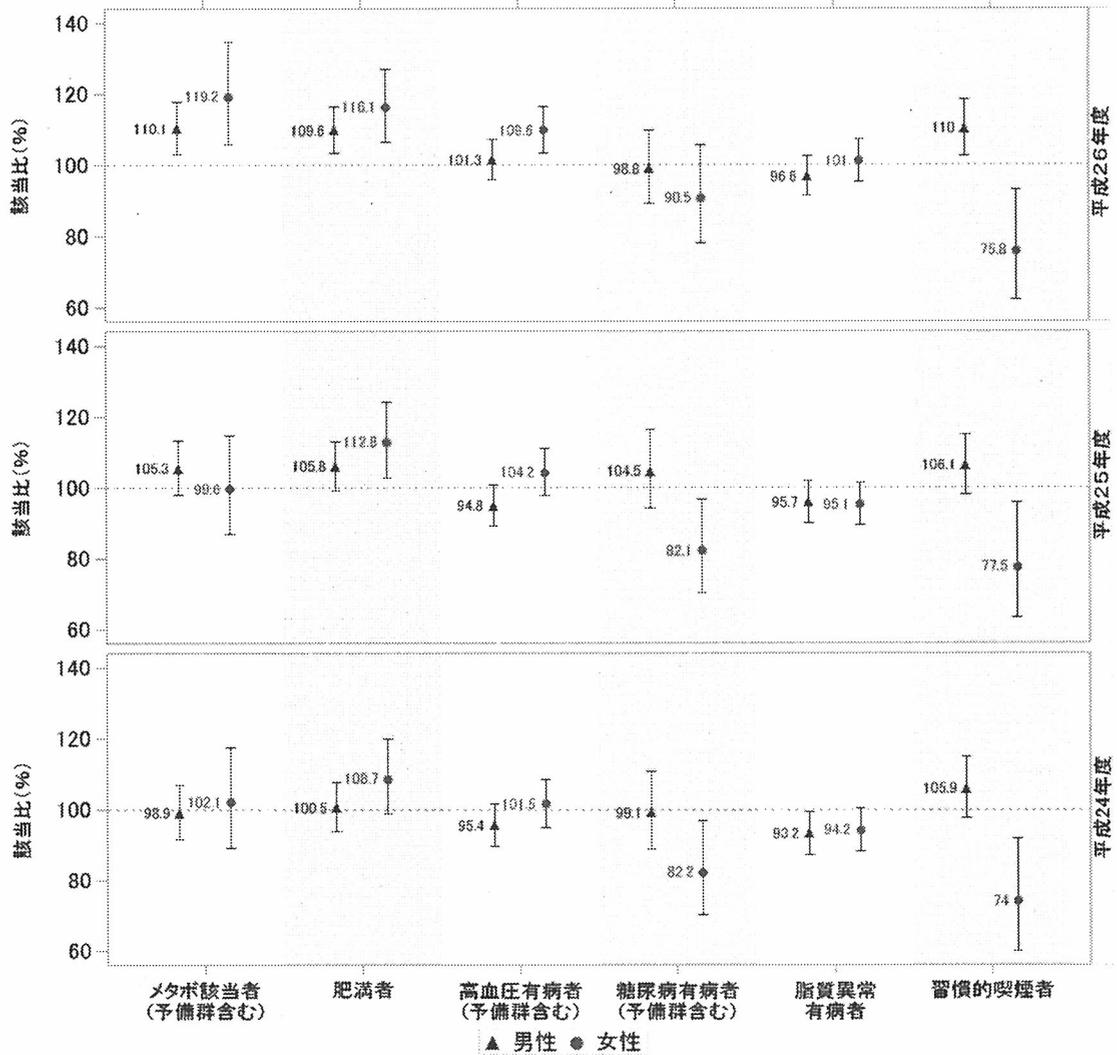
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(海津市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

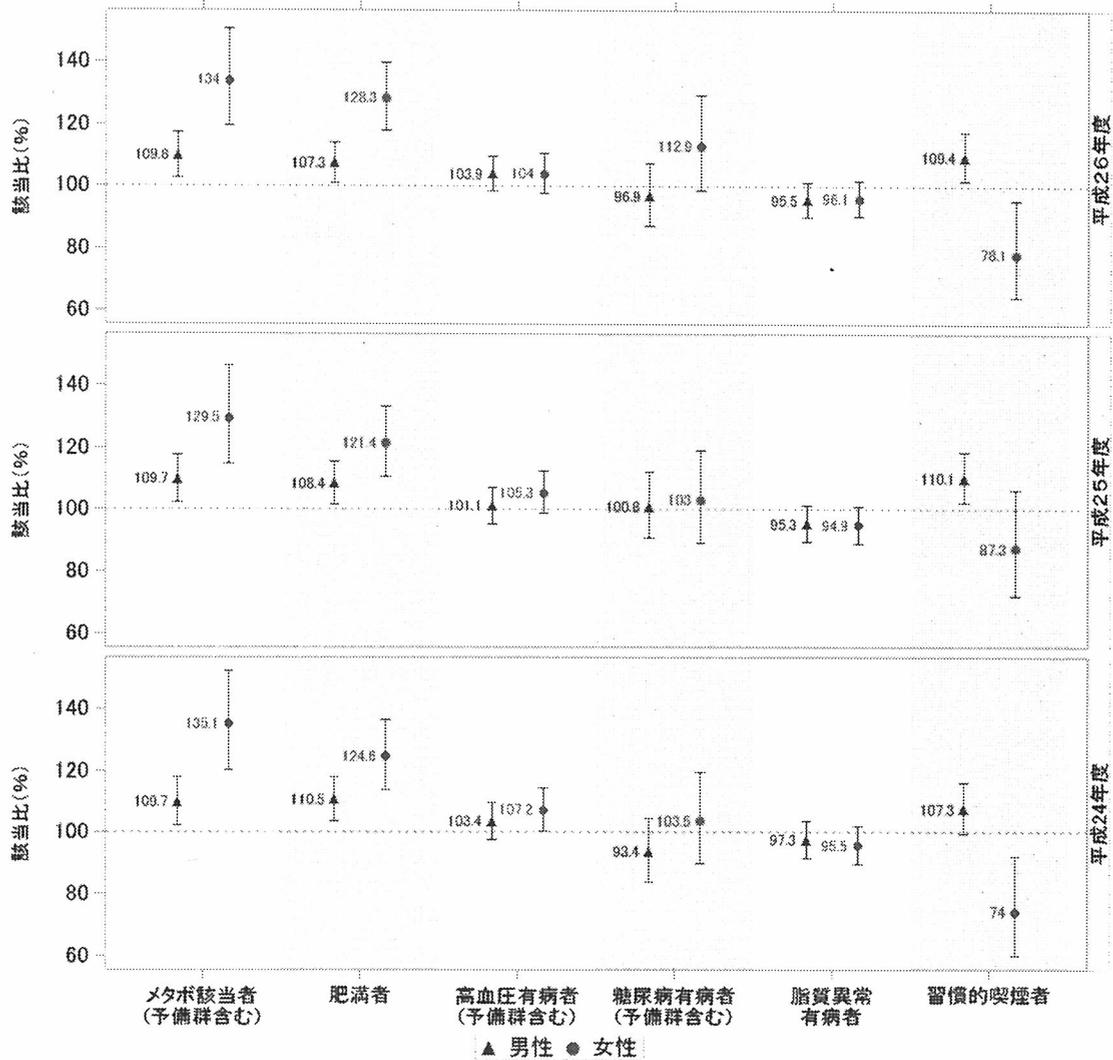
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(養老町)

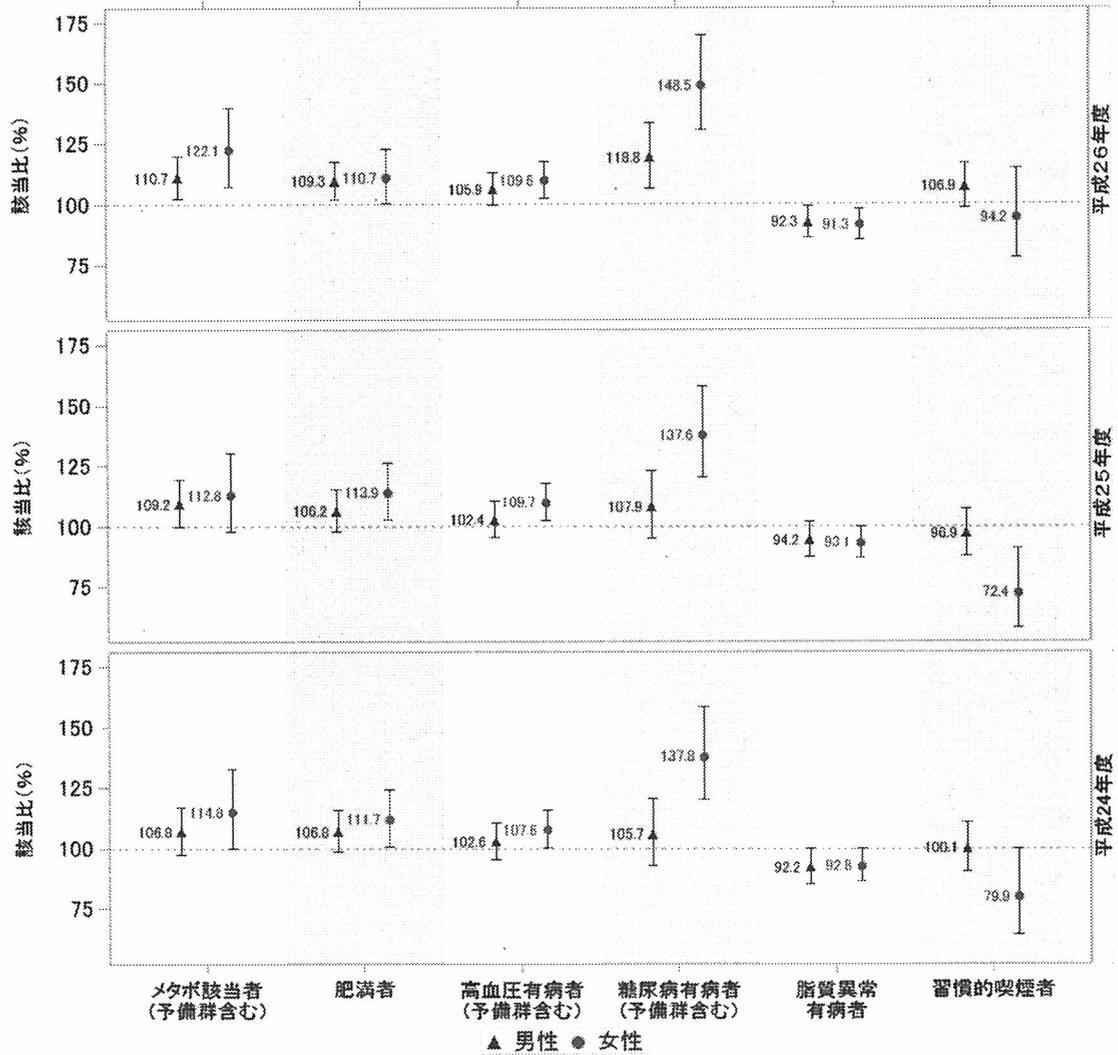


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

同一地域における標準化該当比の比較(垂井町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

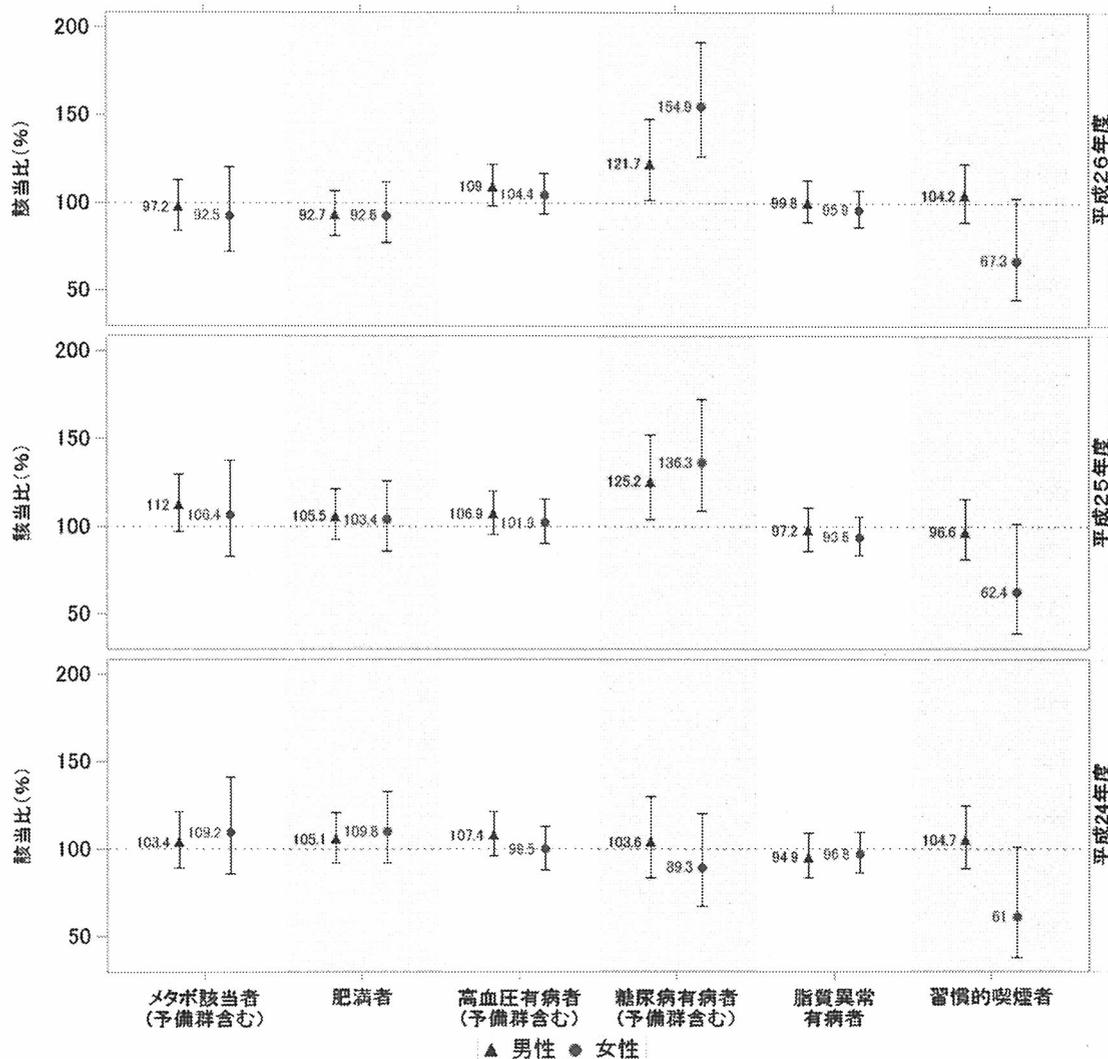
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(関ヶ原町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

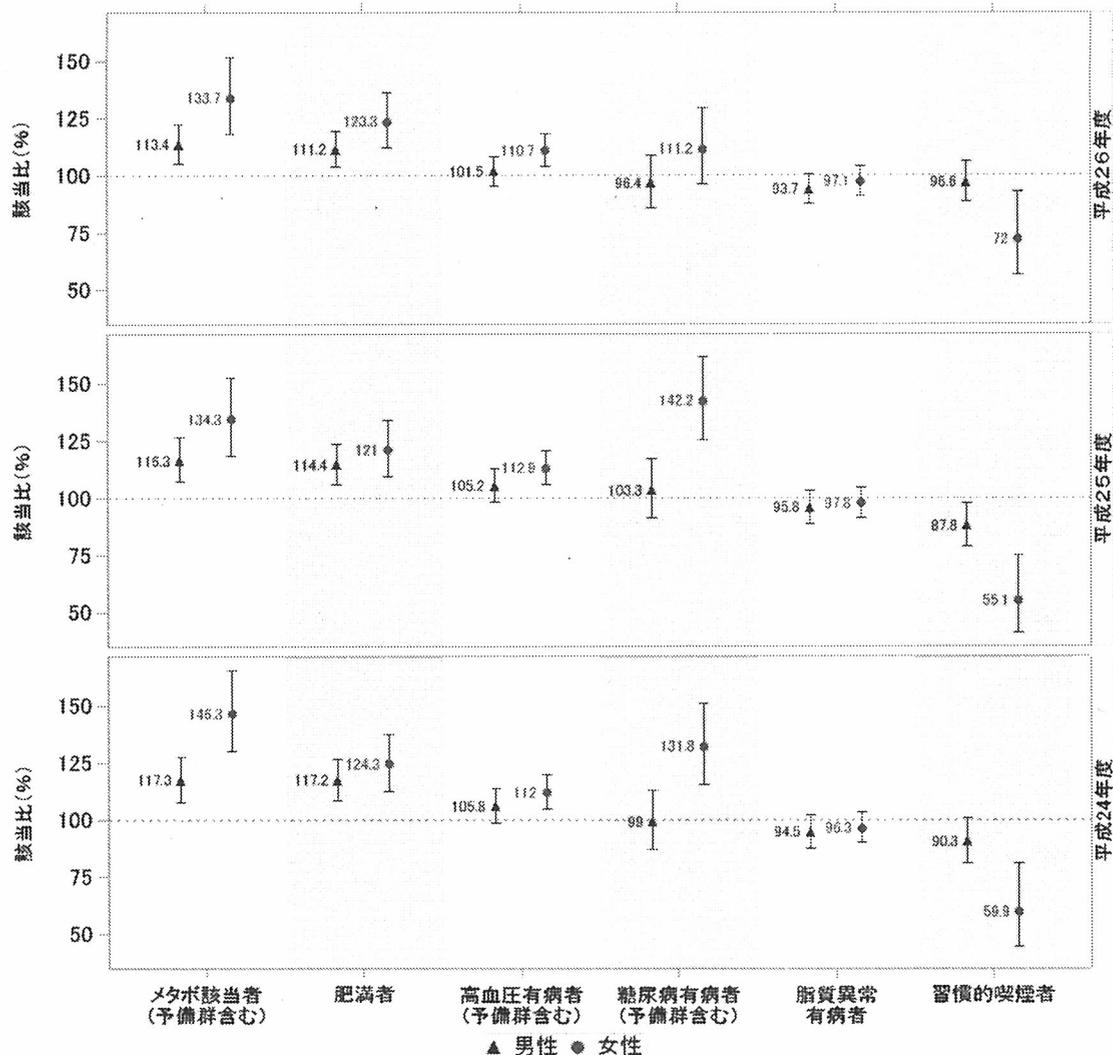
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(神戸町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

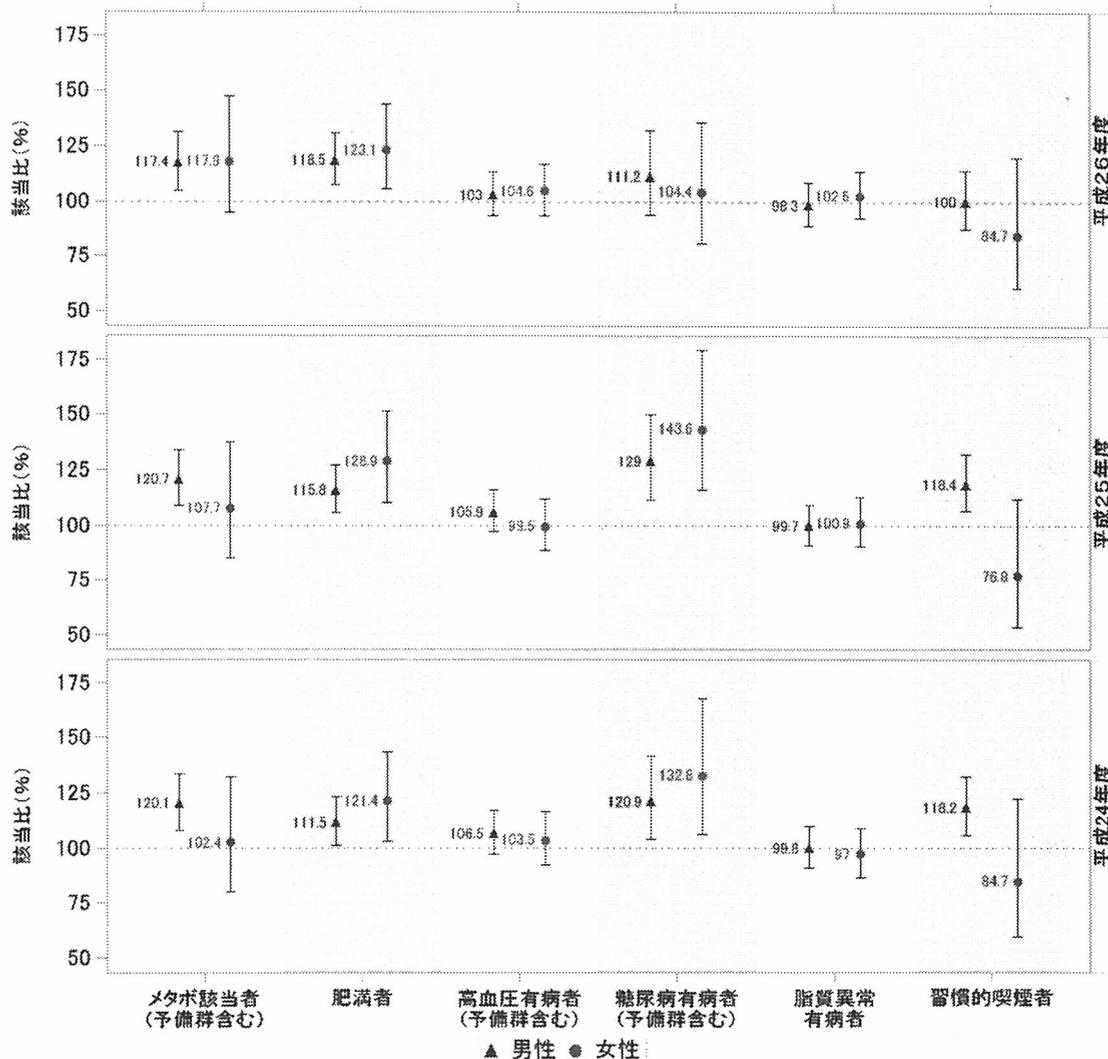
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(輪之内町)

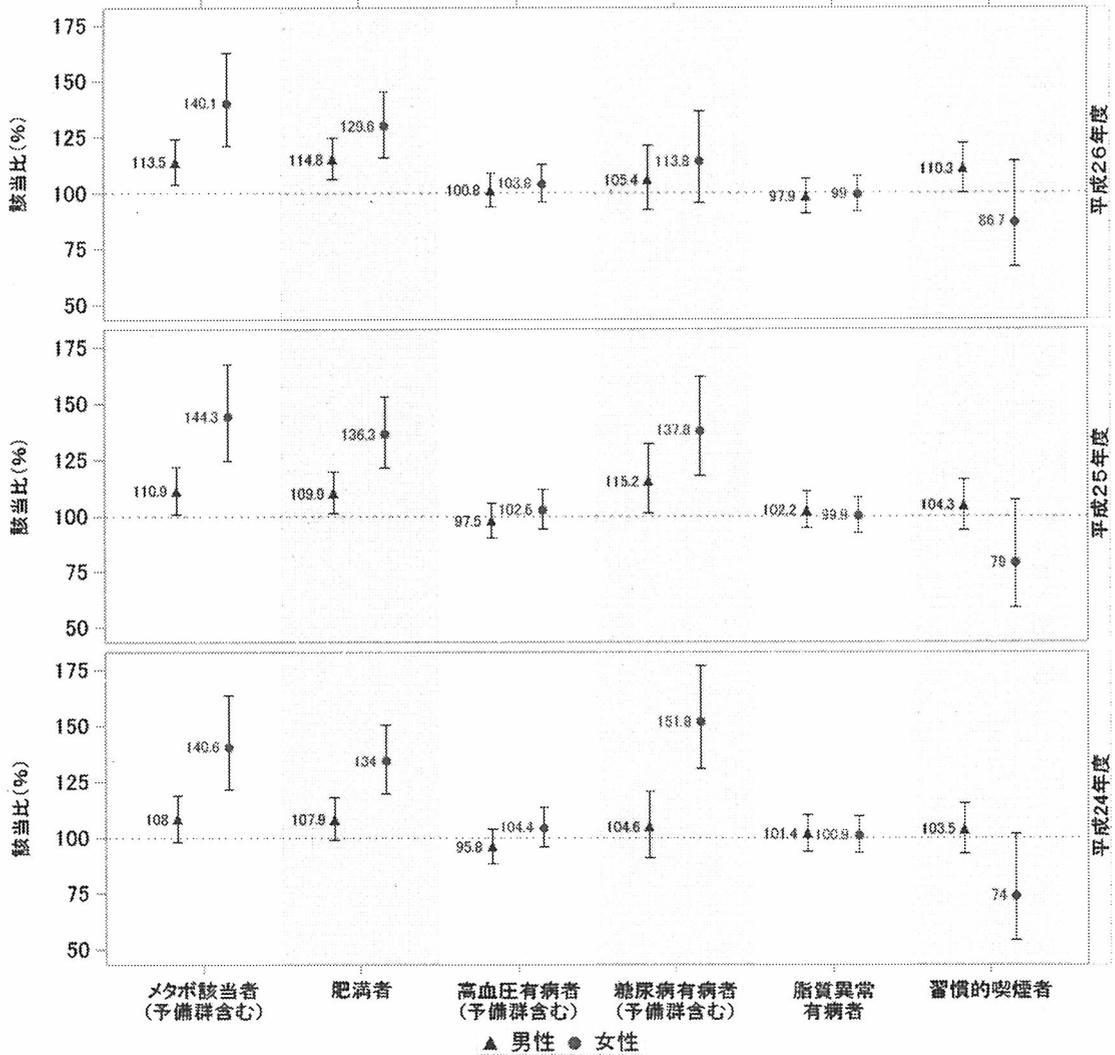


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

同一地域における標準化該当比の比較(安八町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

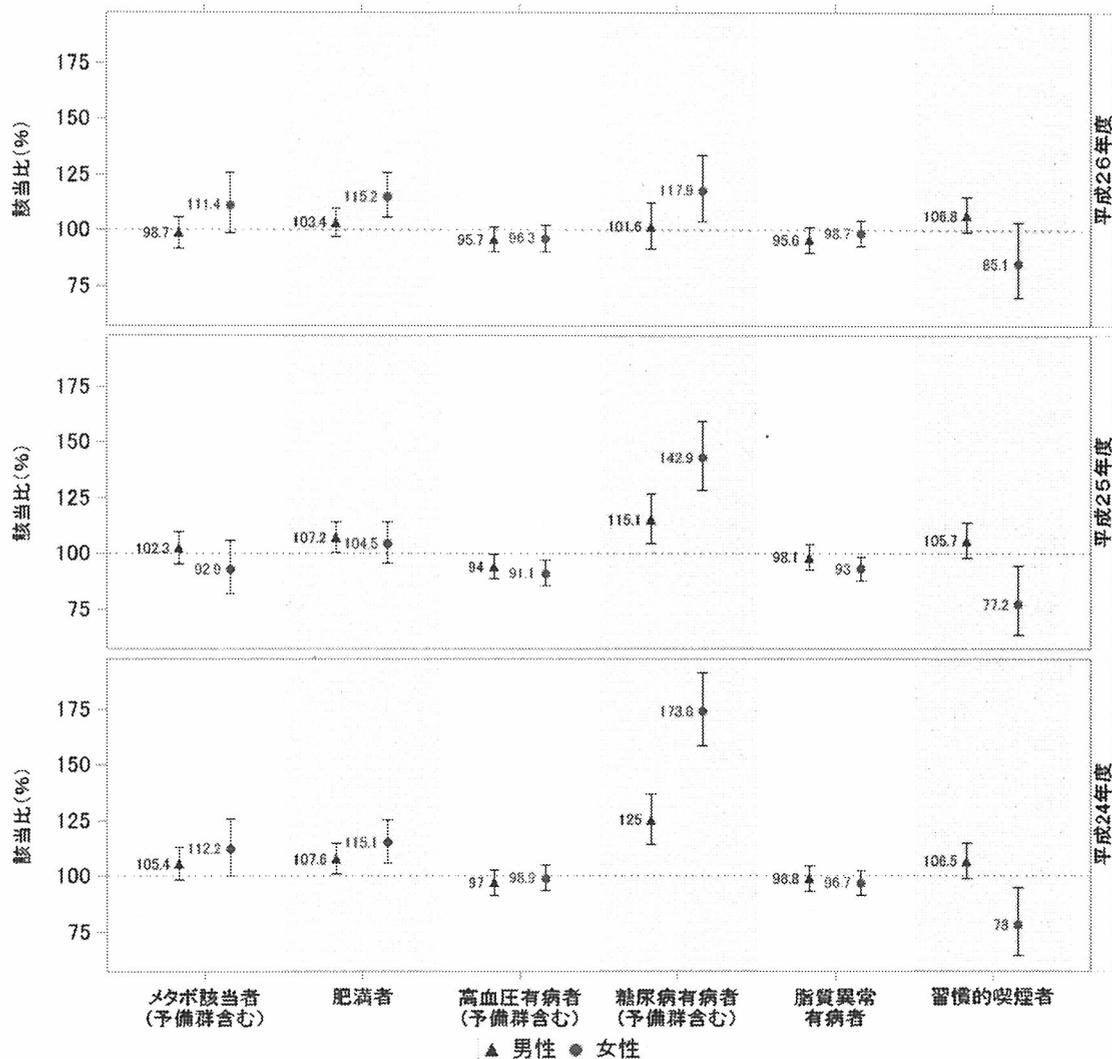
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(揖斐川町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

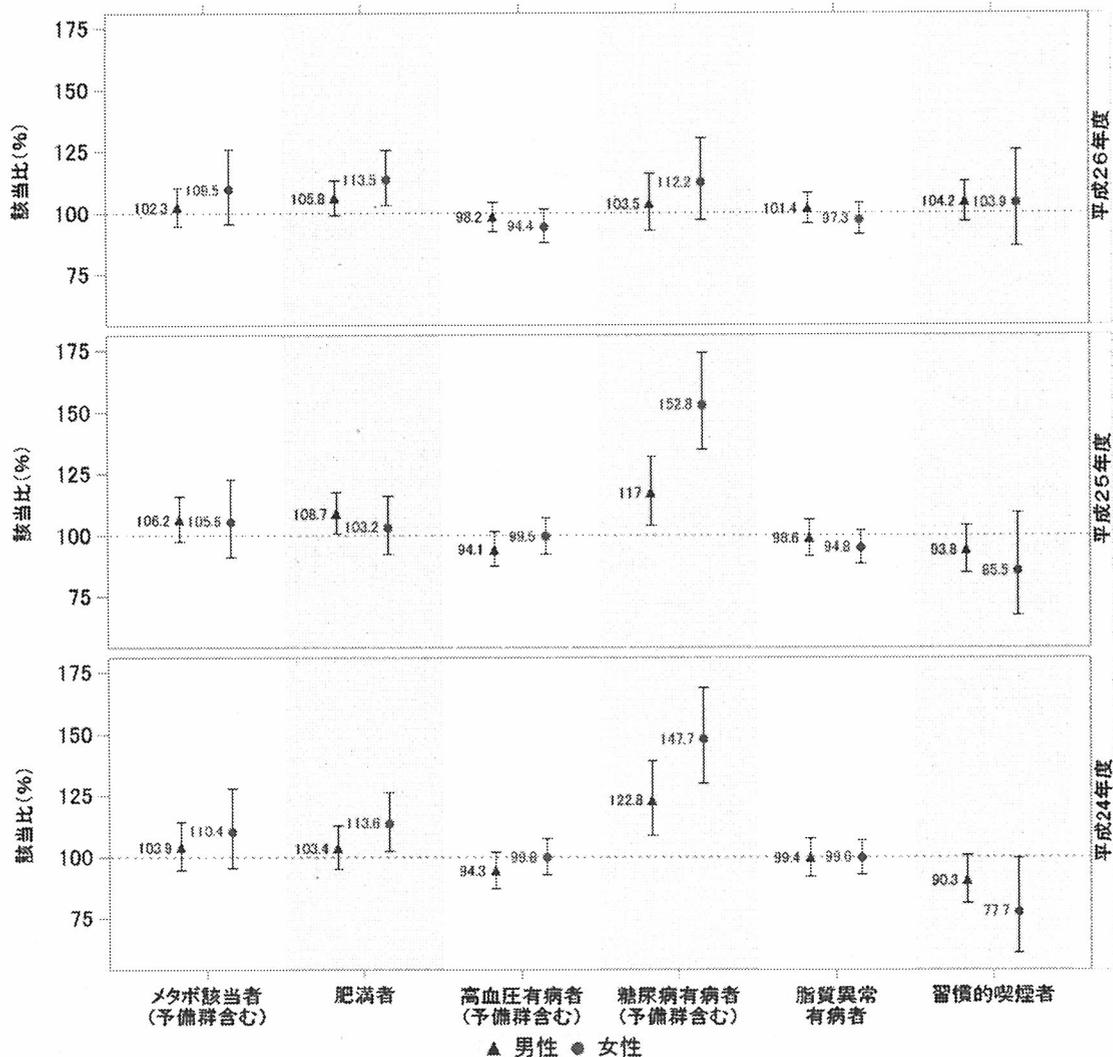
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(大野町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

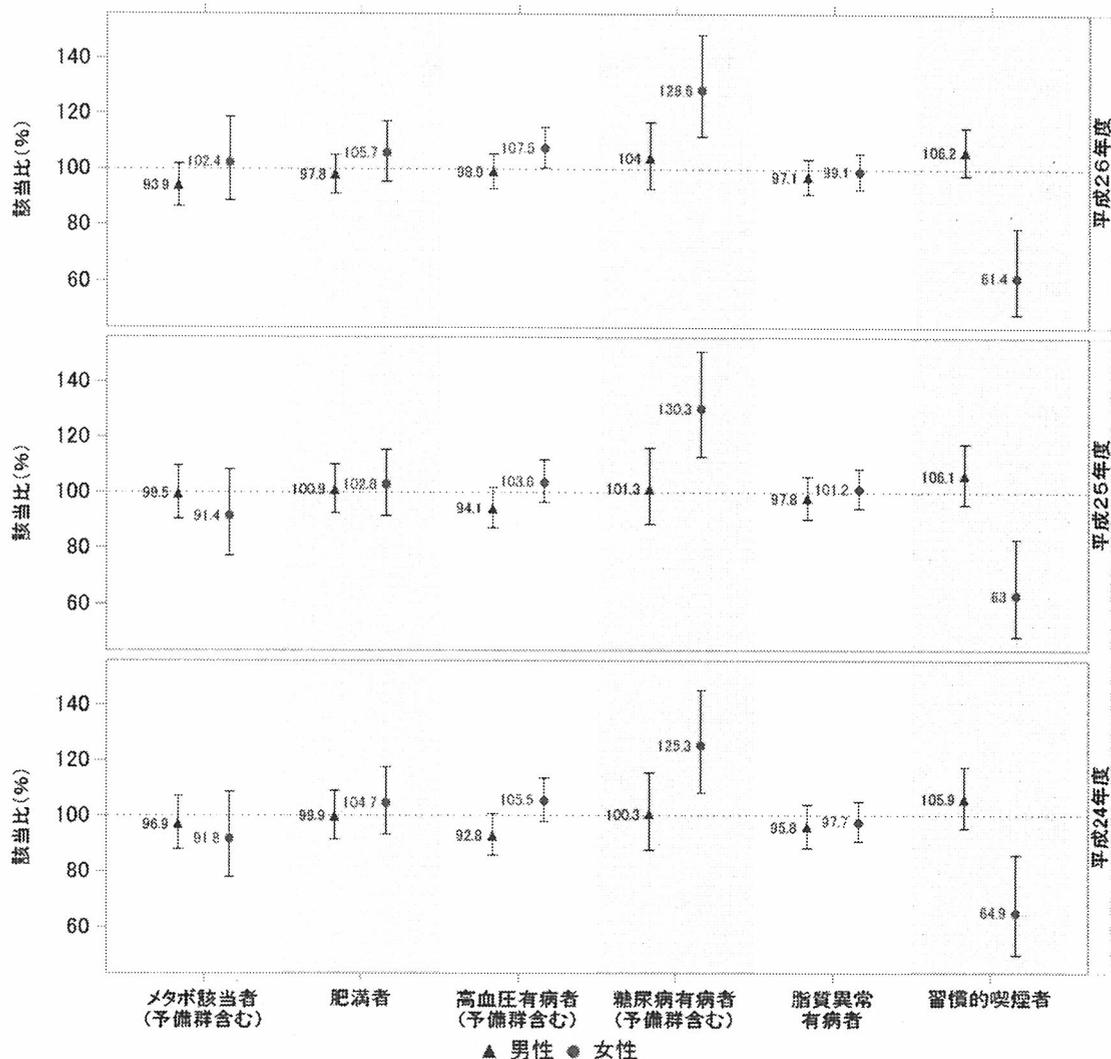
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(池田町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

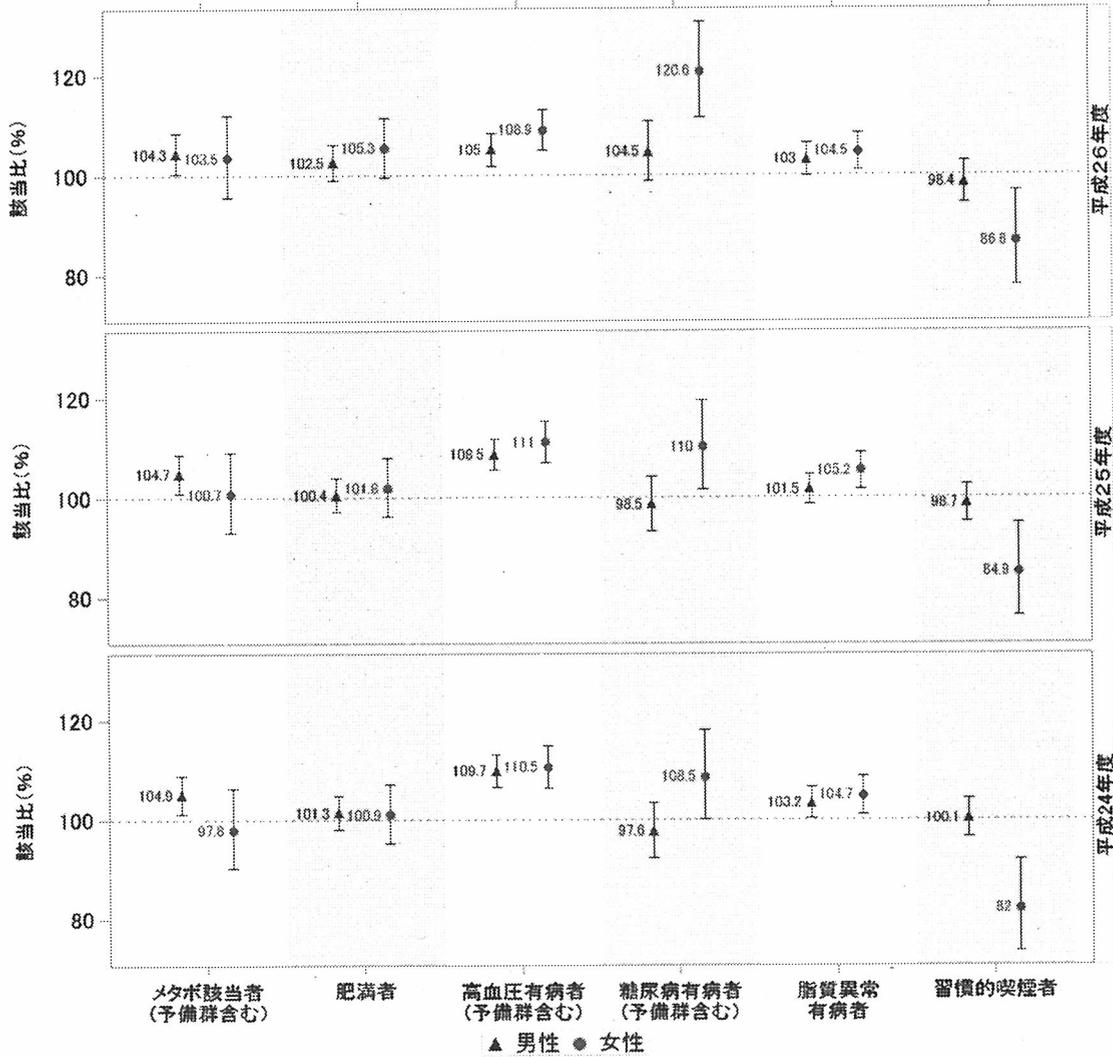
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(関市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

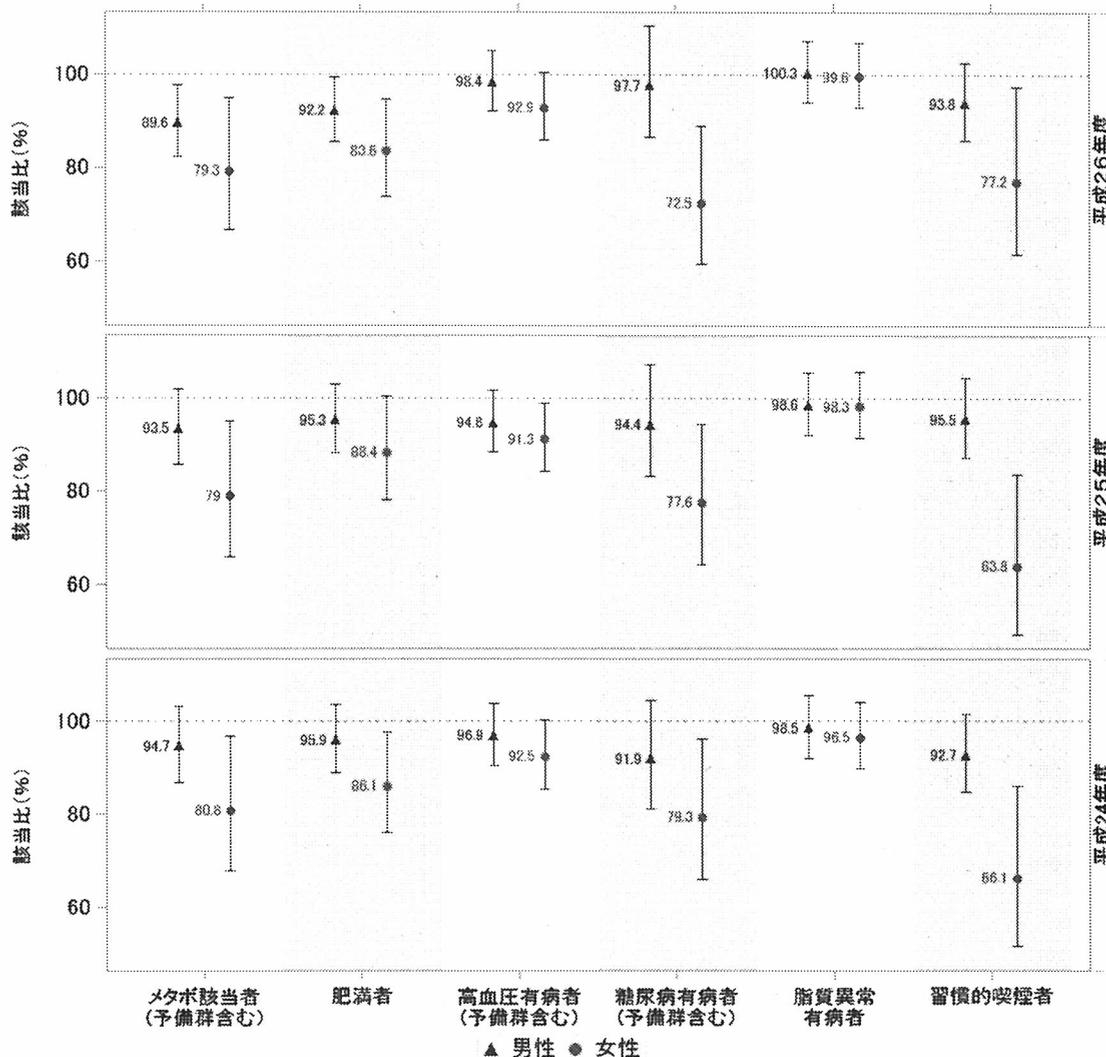
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(美濃市)

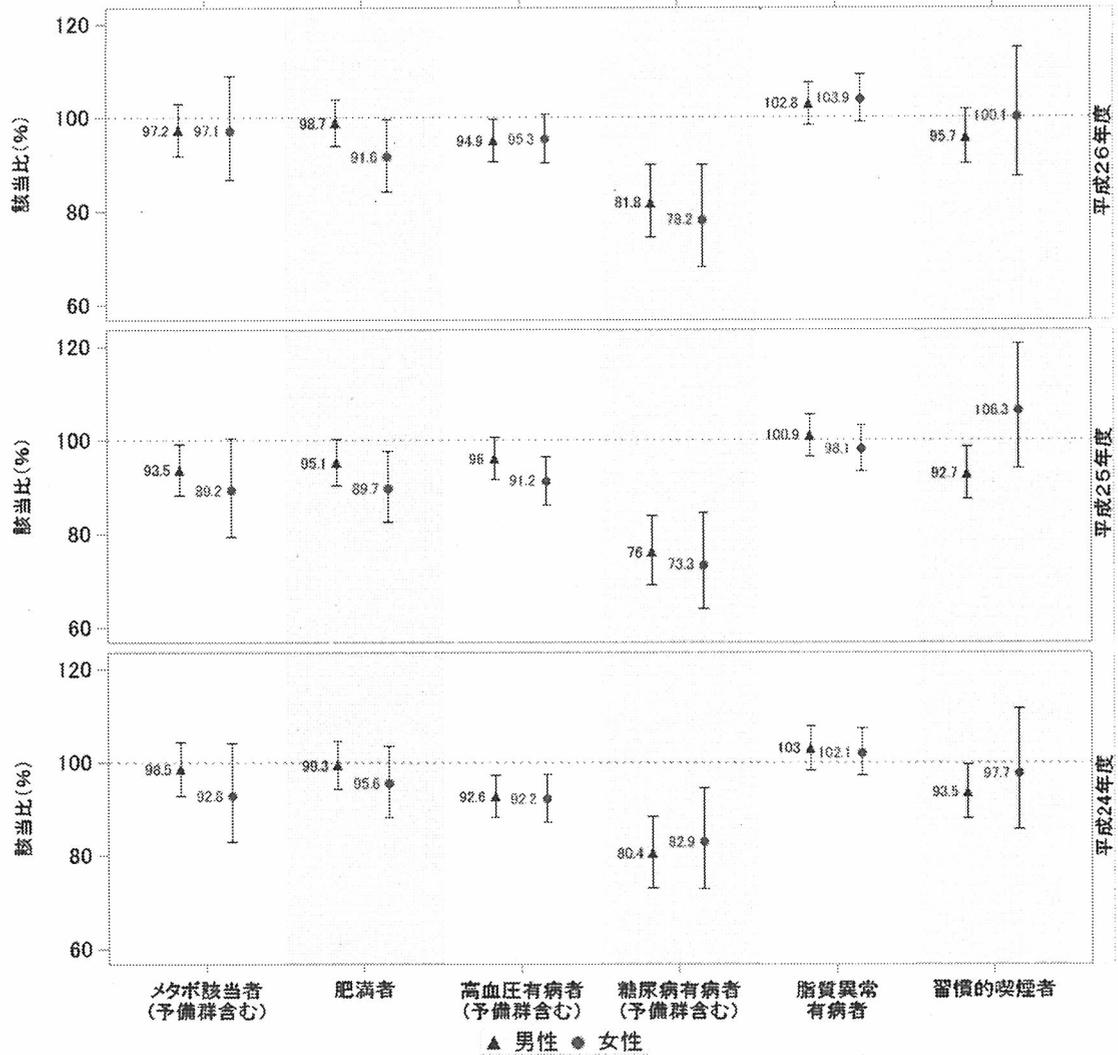


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(美濃加茂市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

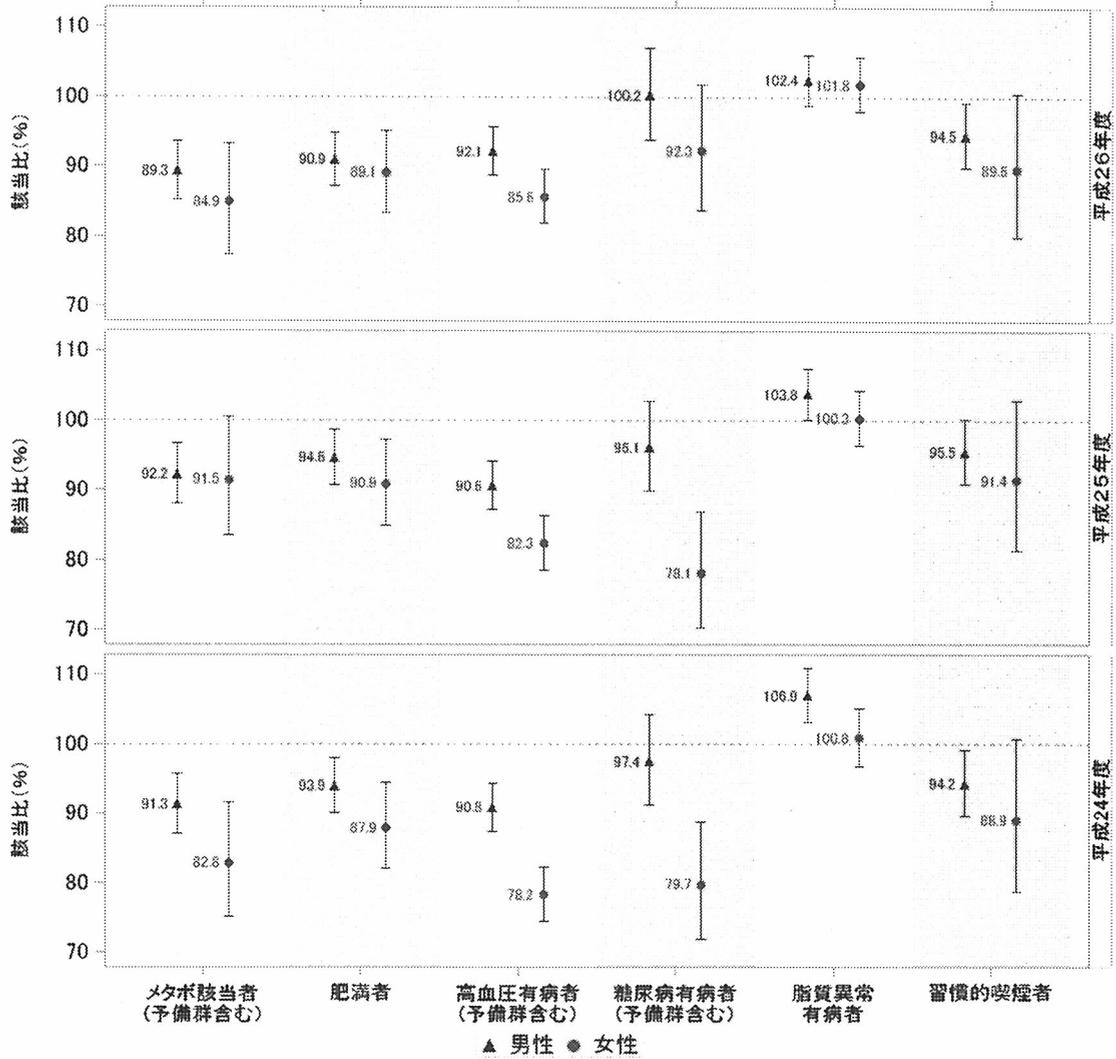
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

同一地域における標準化該当比の比較(可児市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

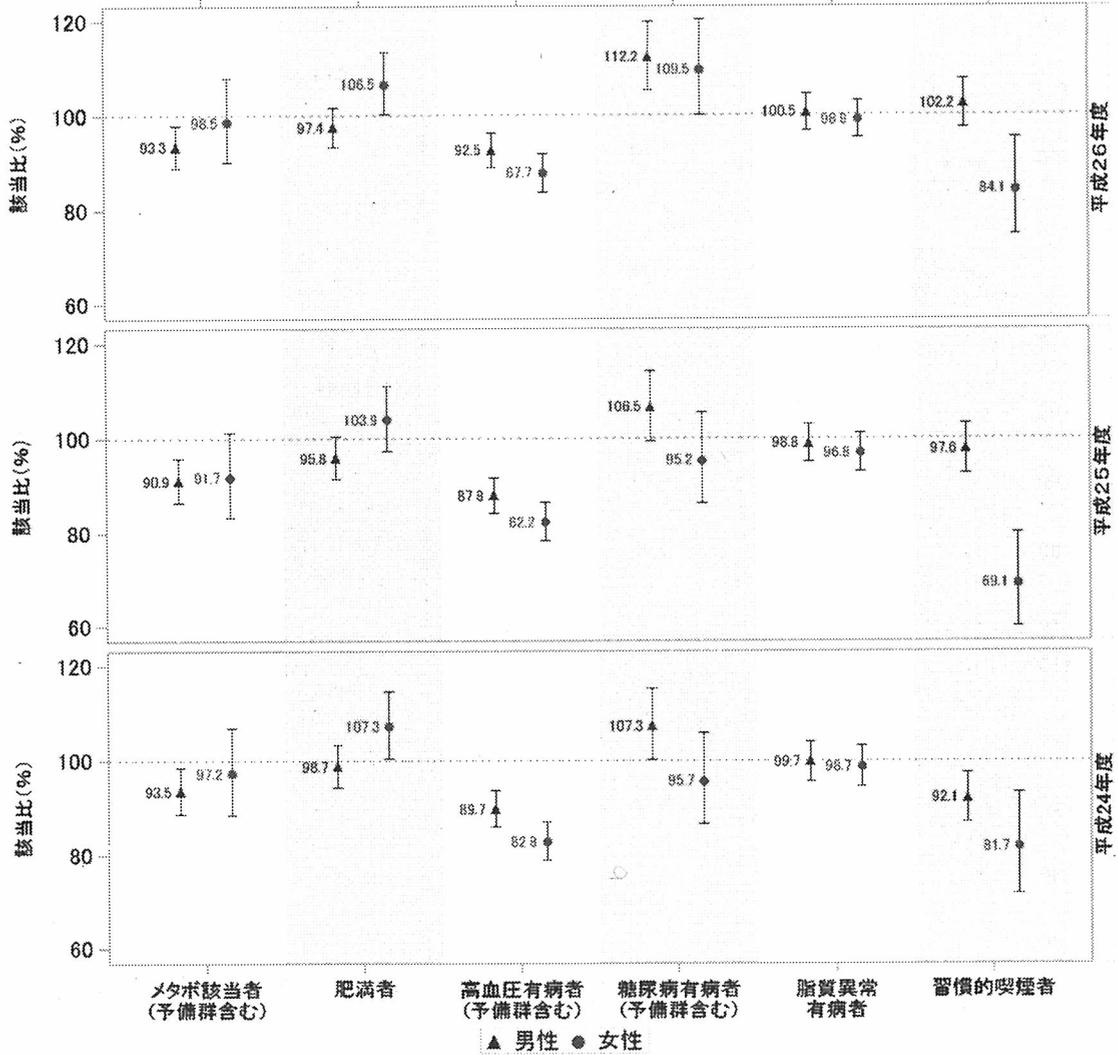
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(郡上市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

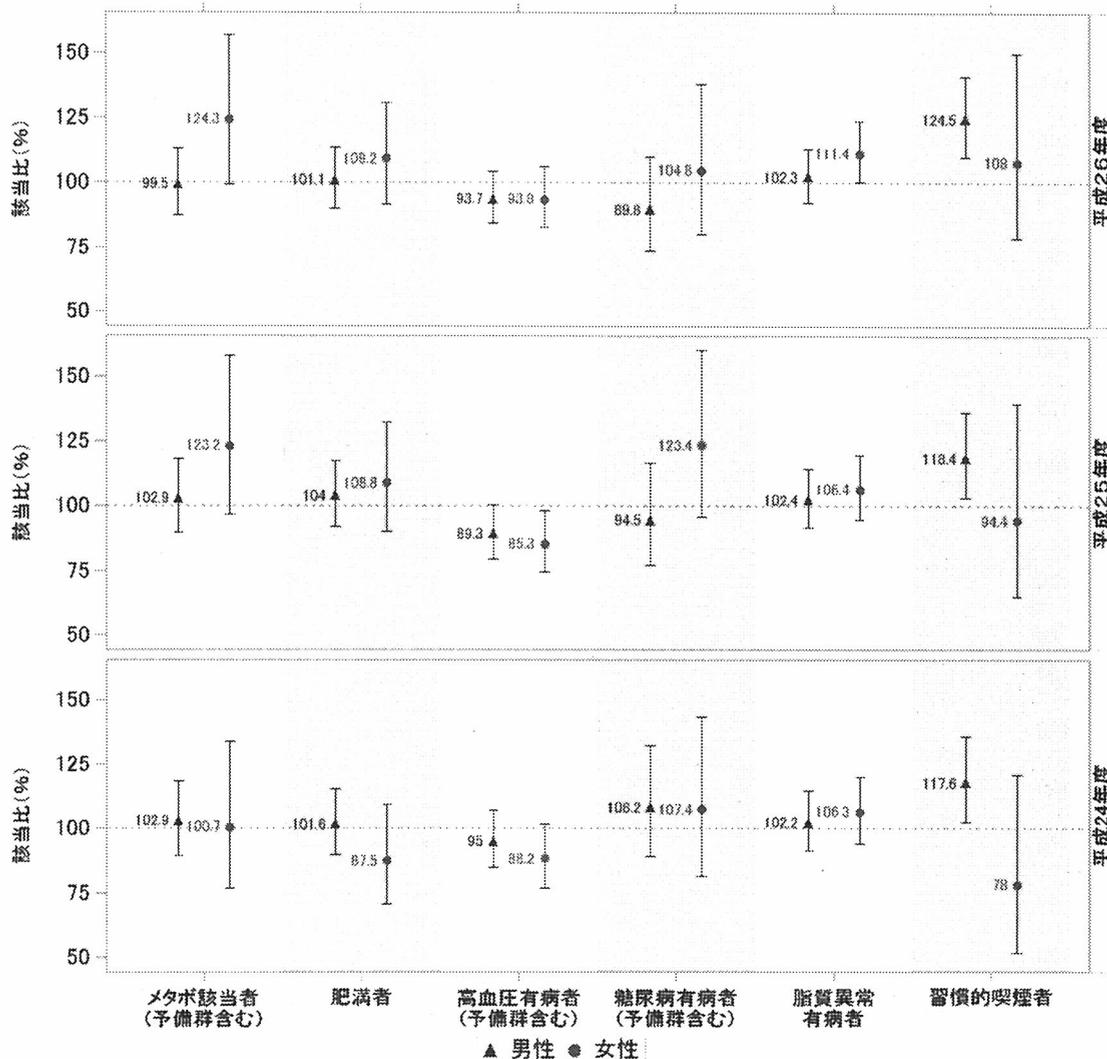
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(坂祝町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

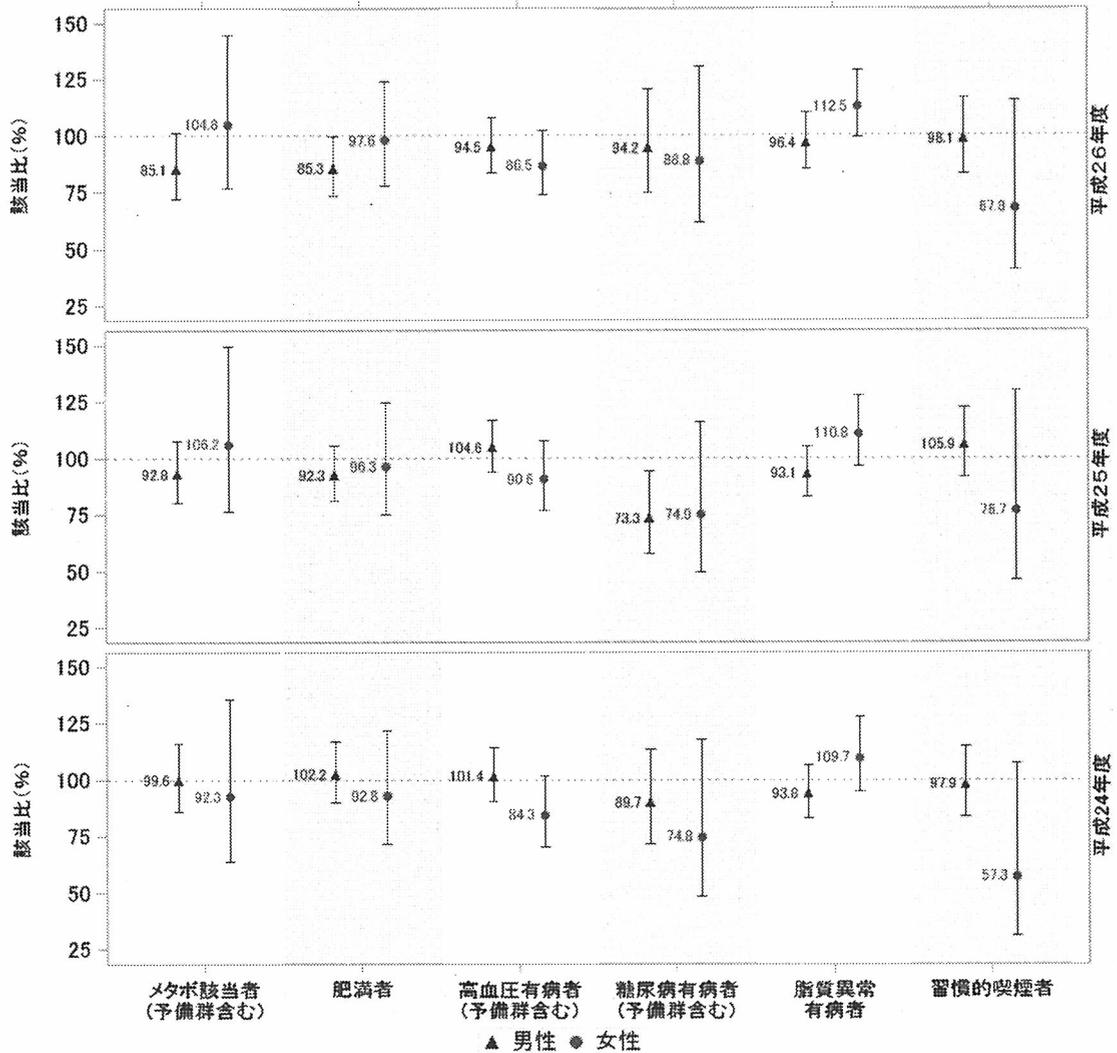
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

同一地域における標準化該当比の比較(富加町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

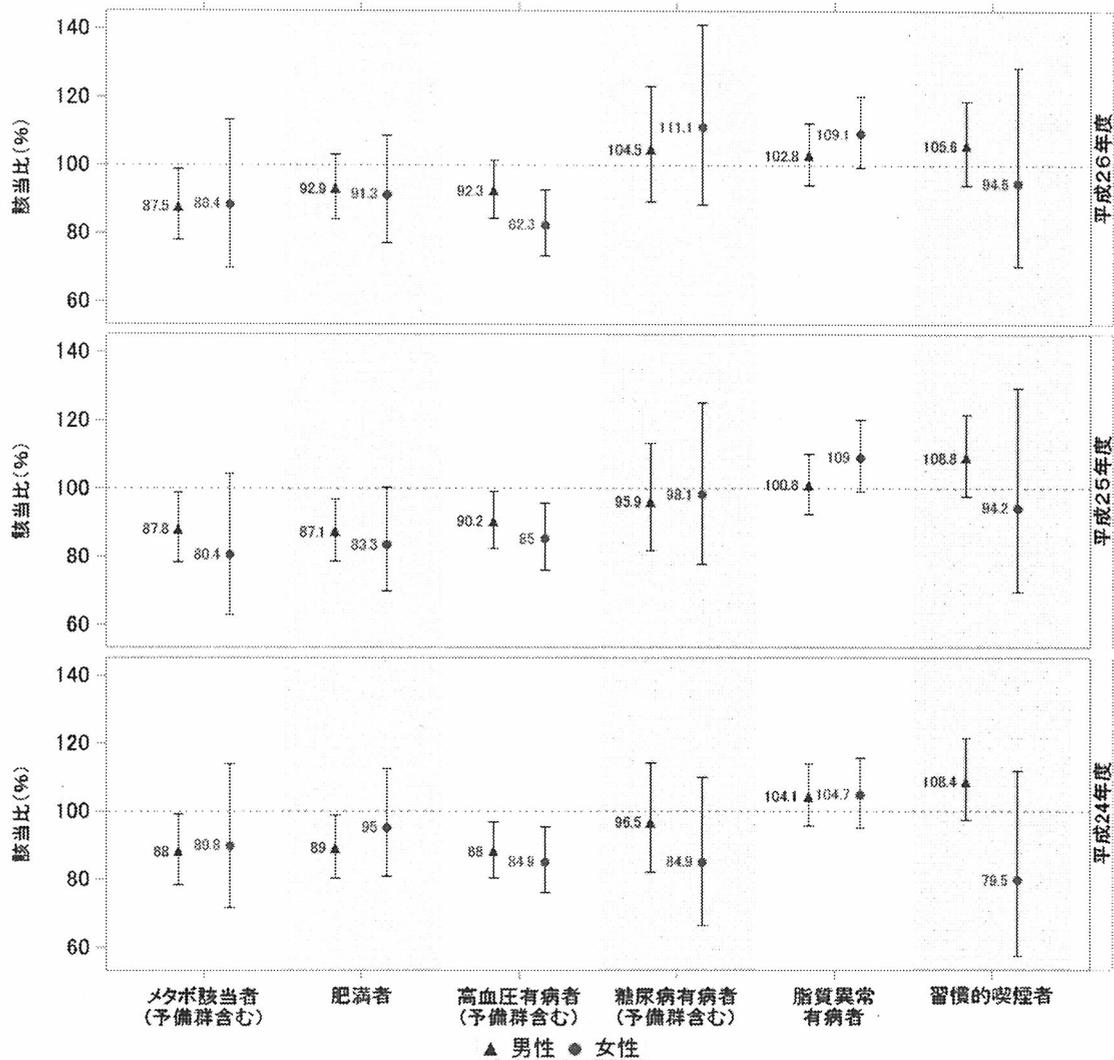
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(川辺町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

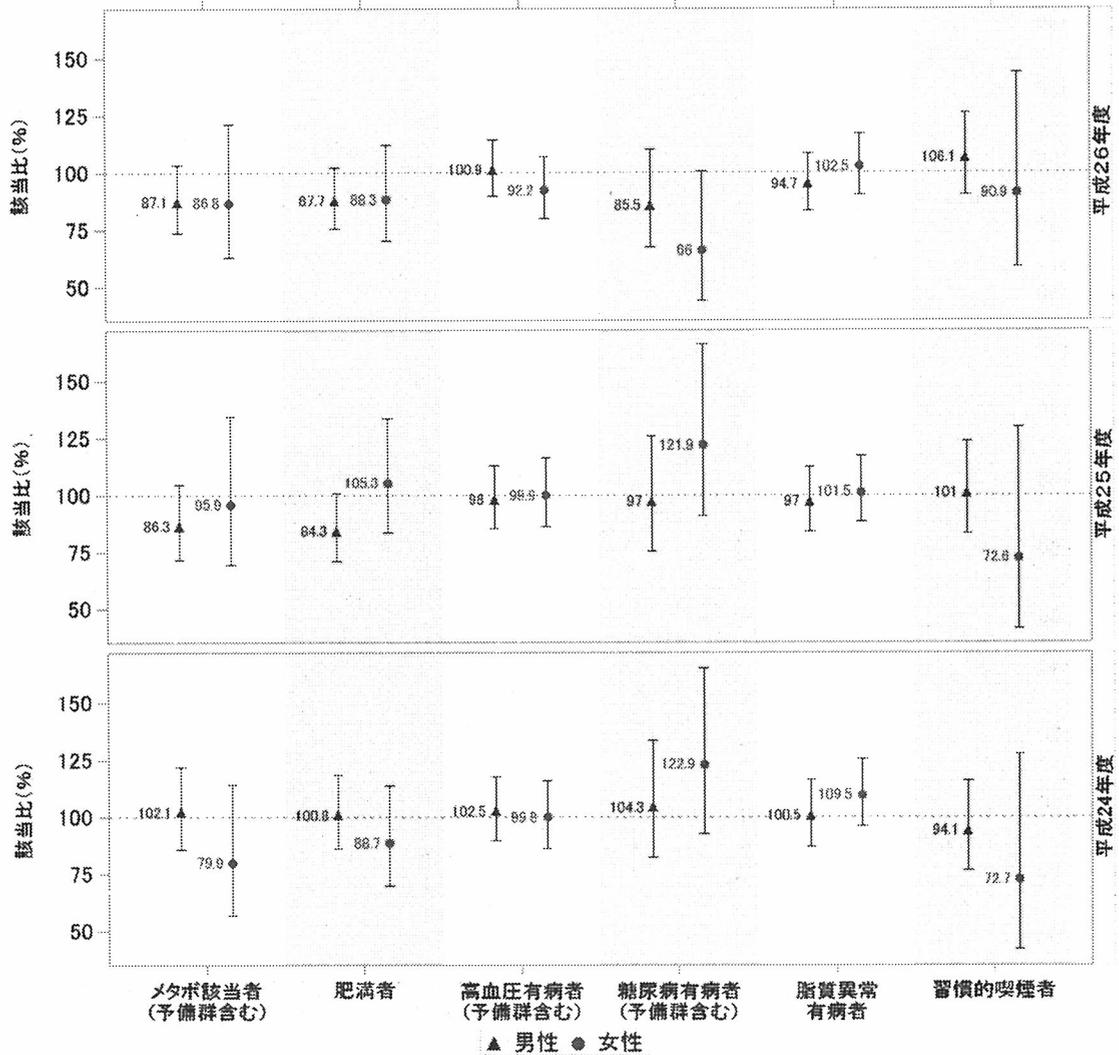
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(七宗町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

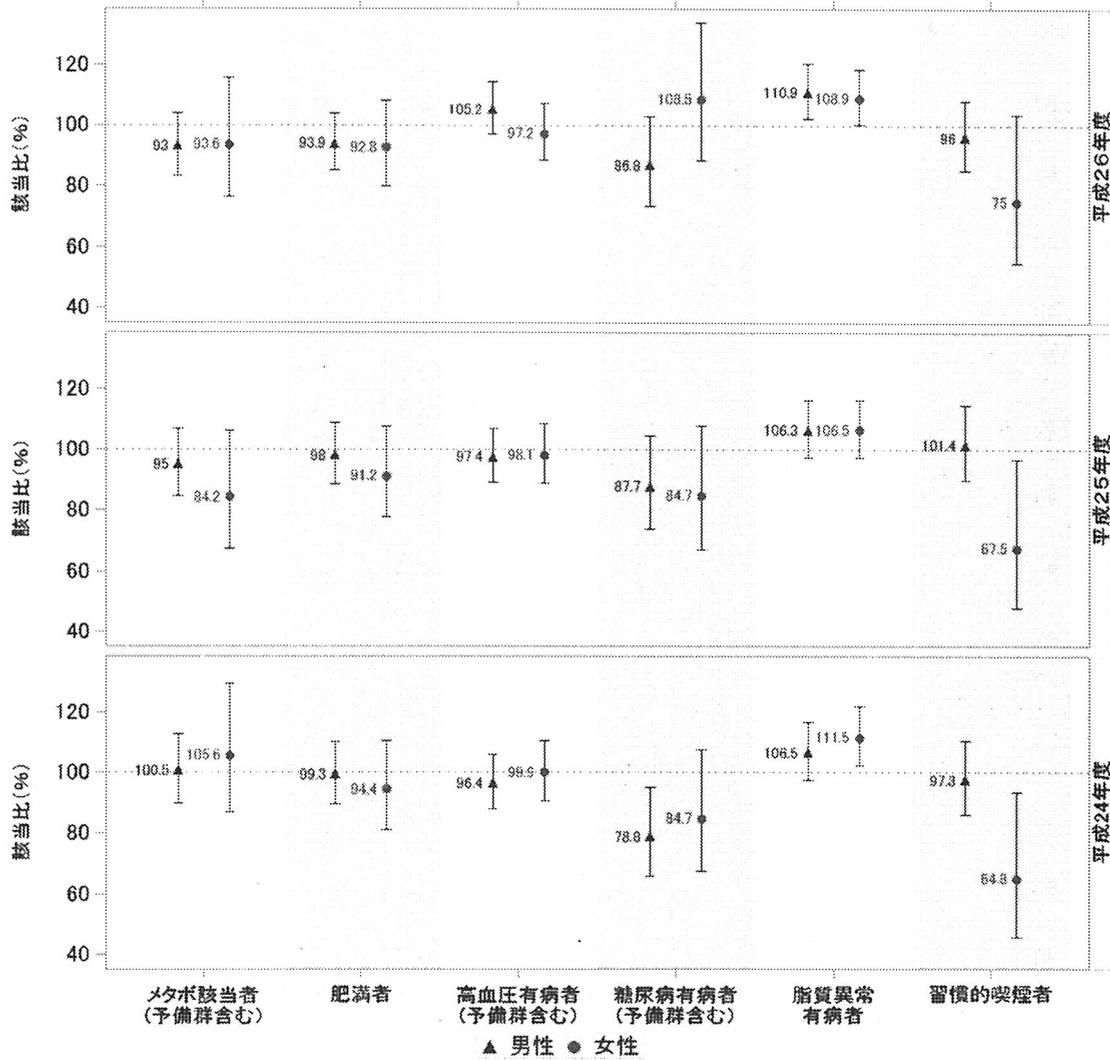
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(八百津町)

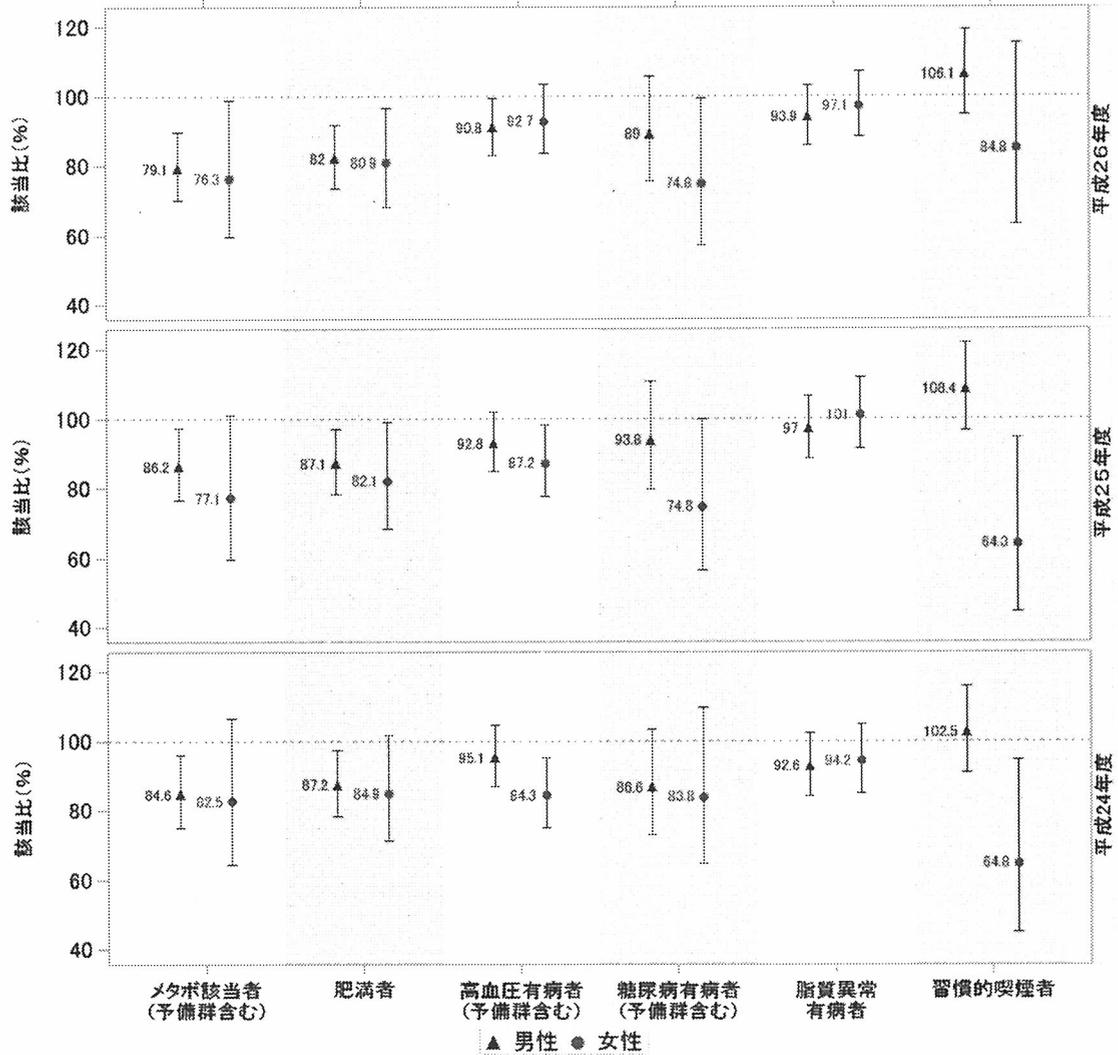


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(白川町)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

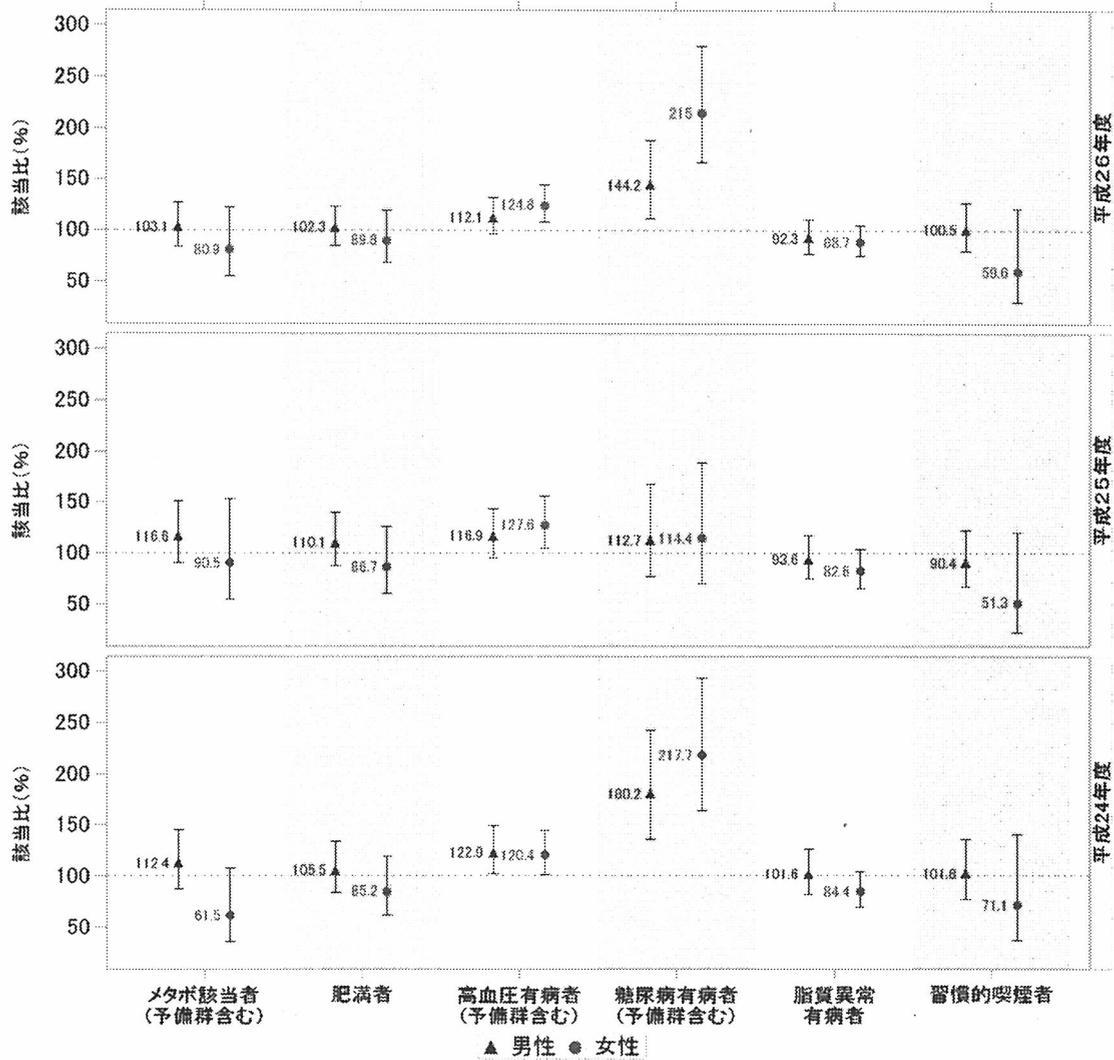
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

同一地域における標準化該当比の比較(東白川村)

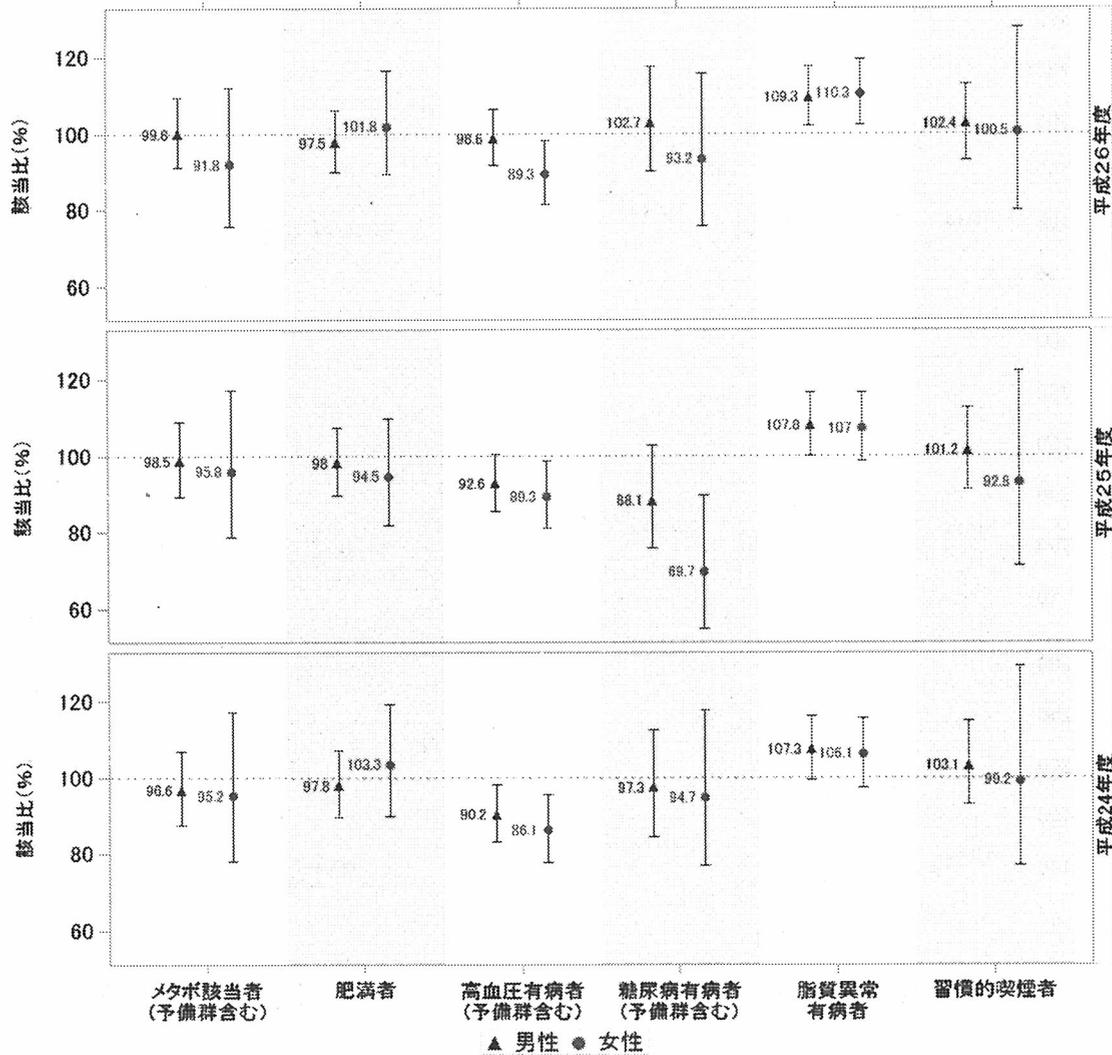


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

同一地域における標準化該当比の比較(御嵩町)

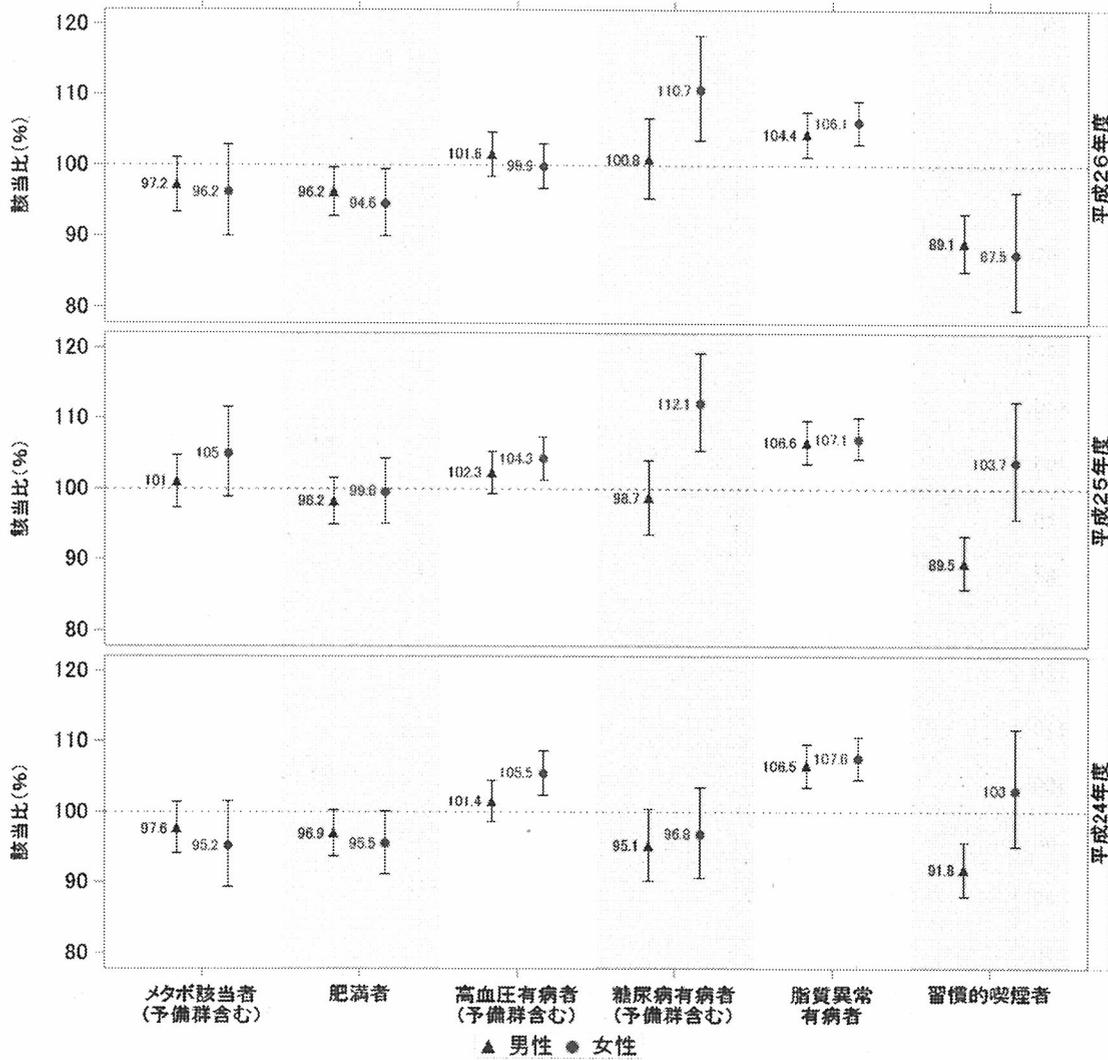


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(多治見市)

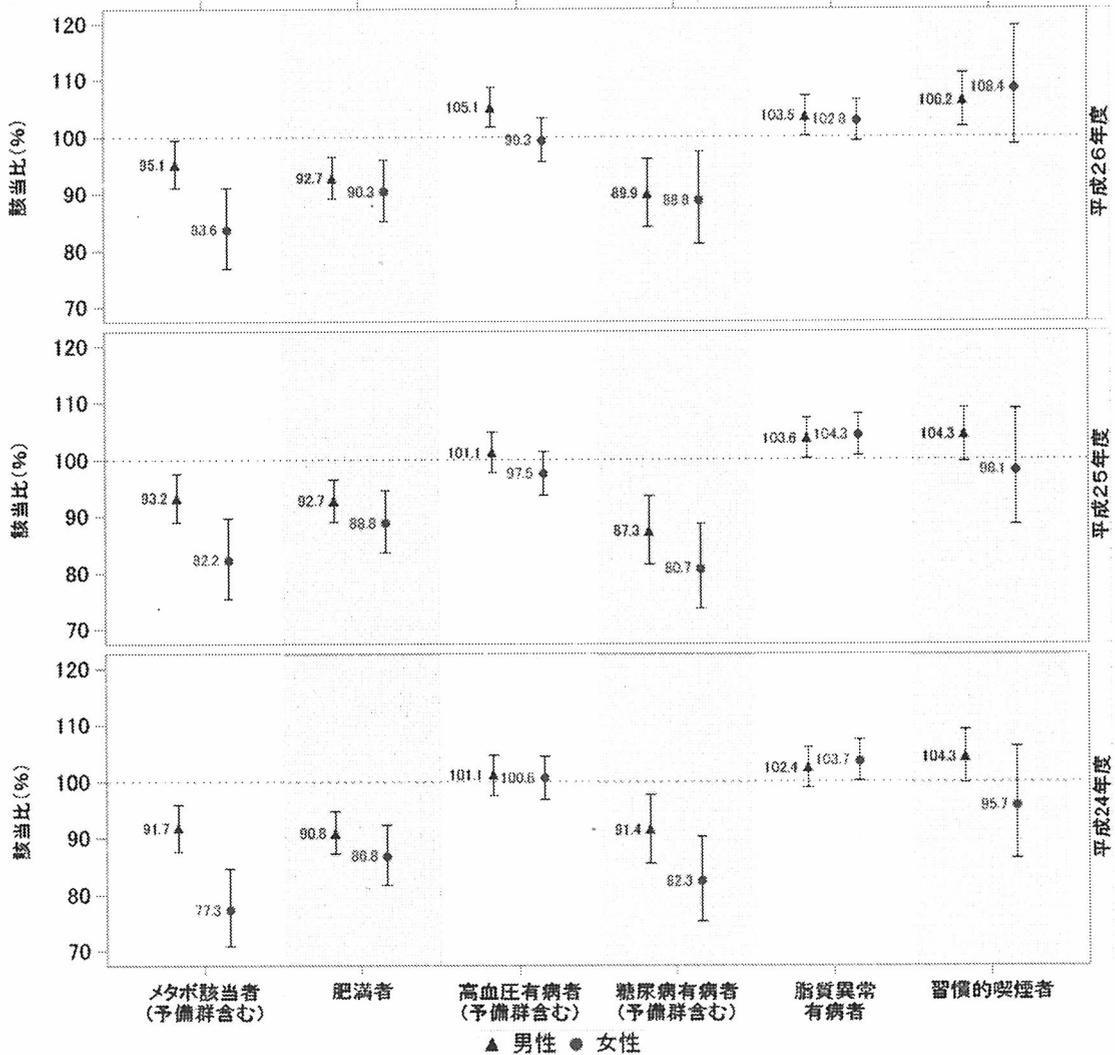


標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。
- 「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。
- 「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(中津川市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

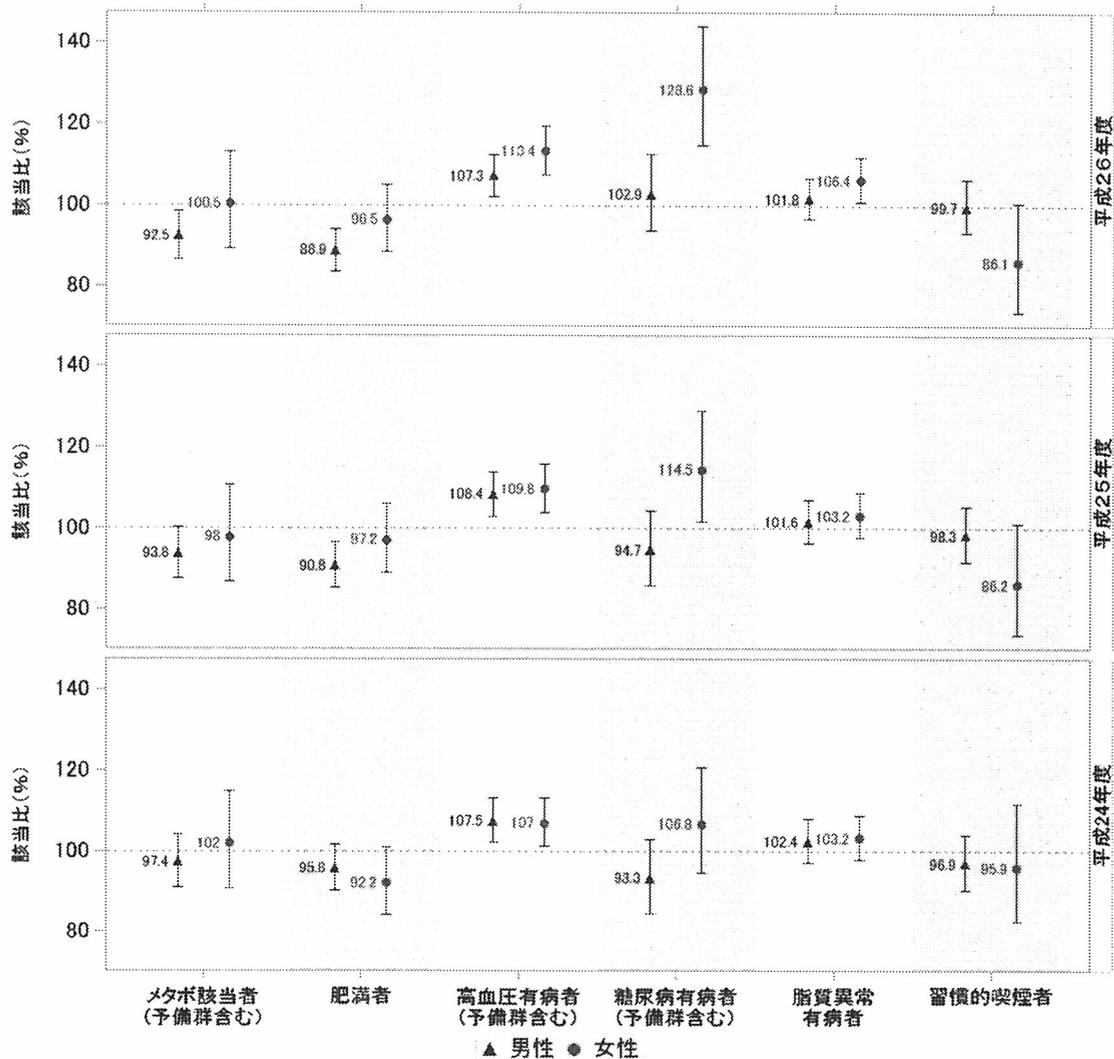
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(瑞浪市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

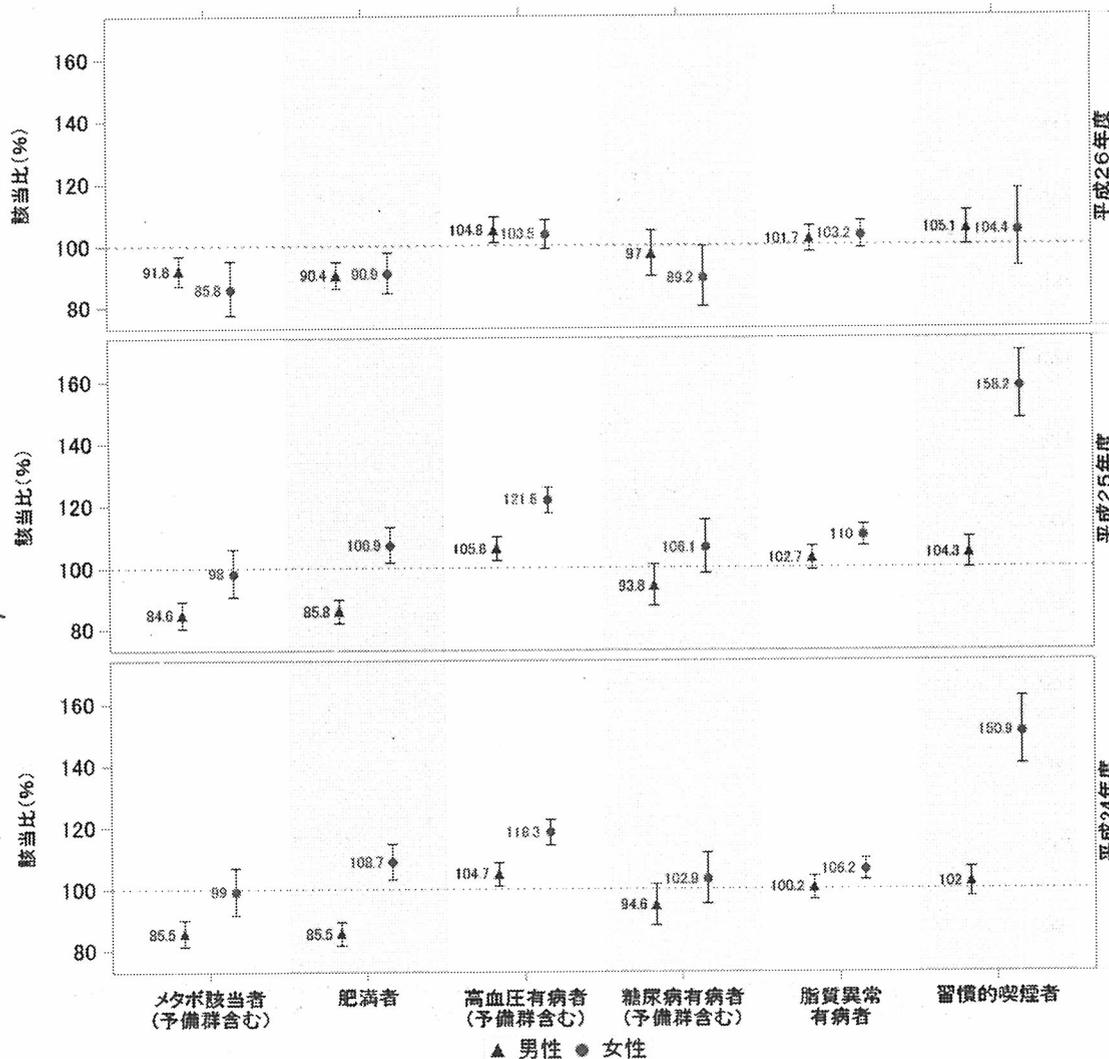
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(恵那市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

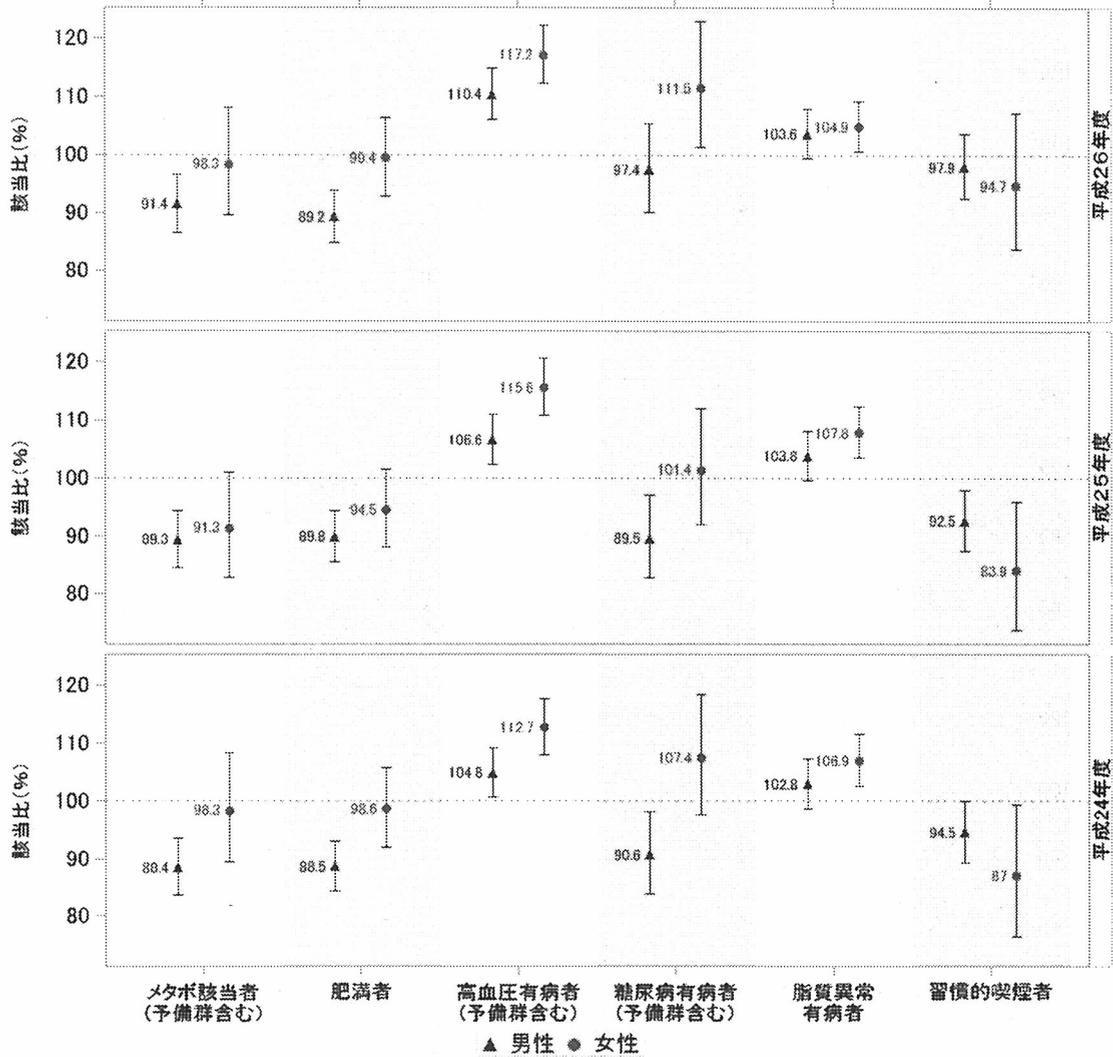
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(土岐市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

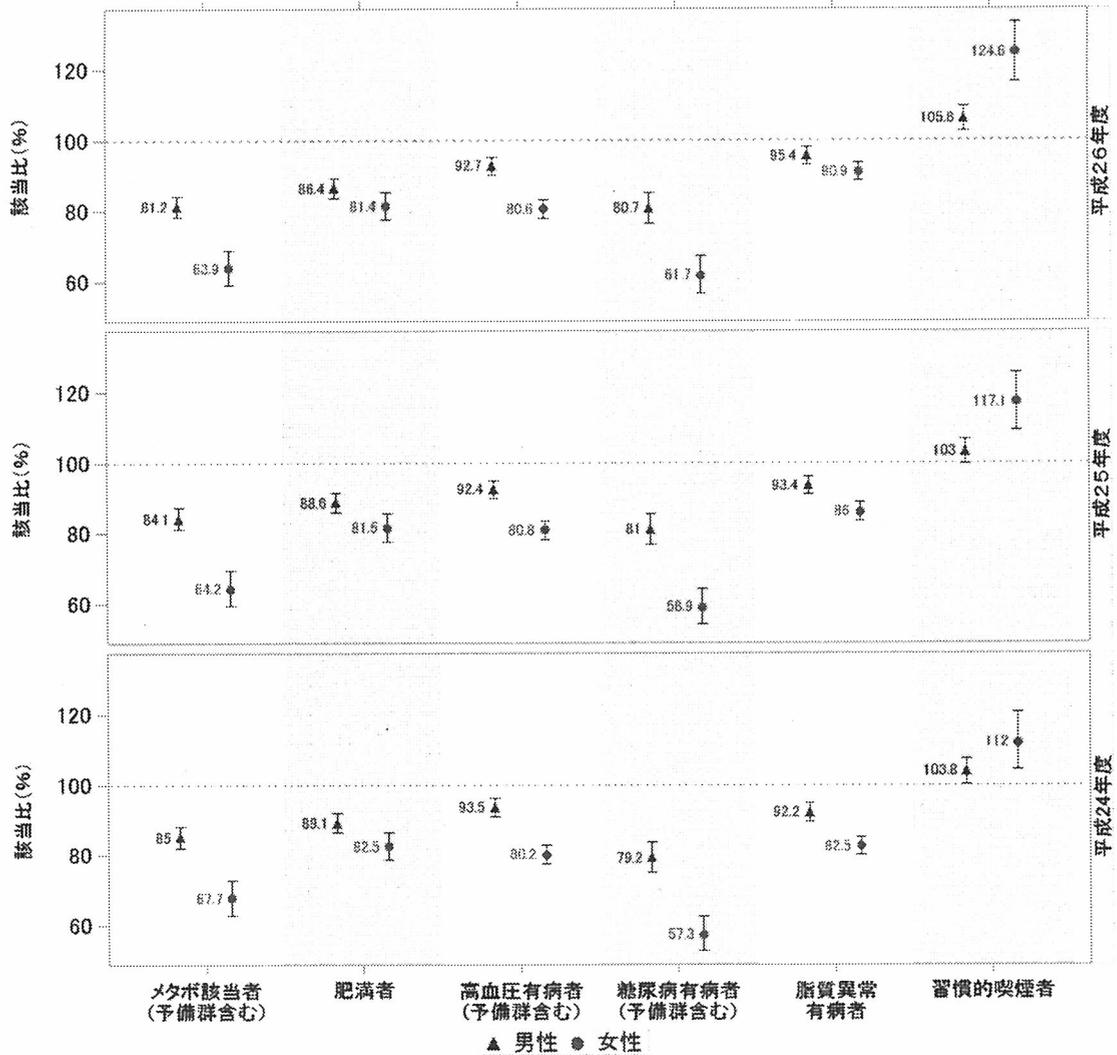
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低い有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高い有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高い有意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(高山市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

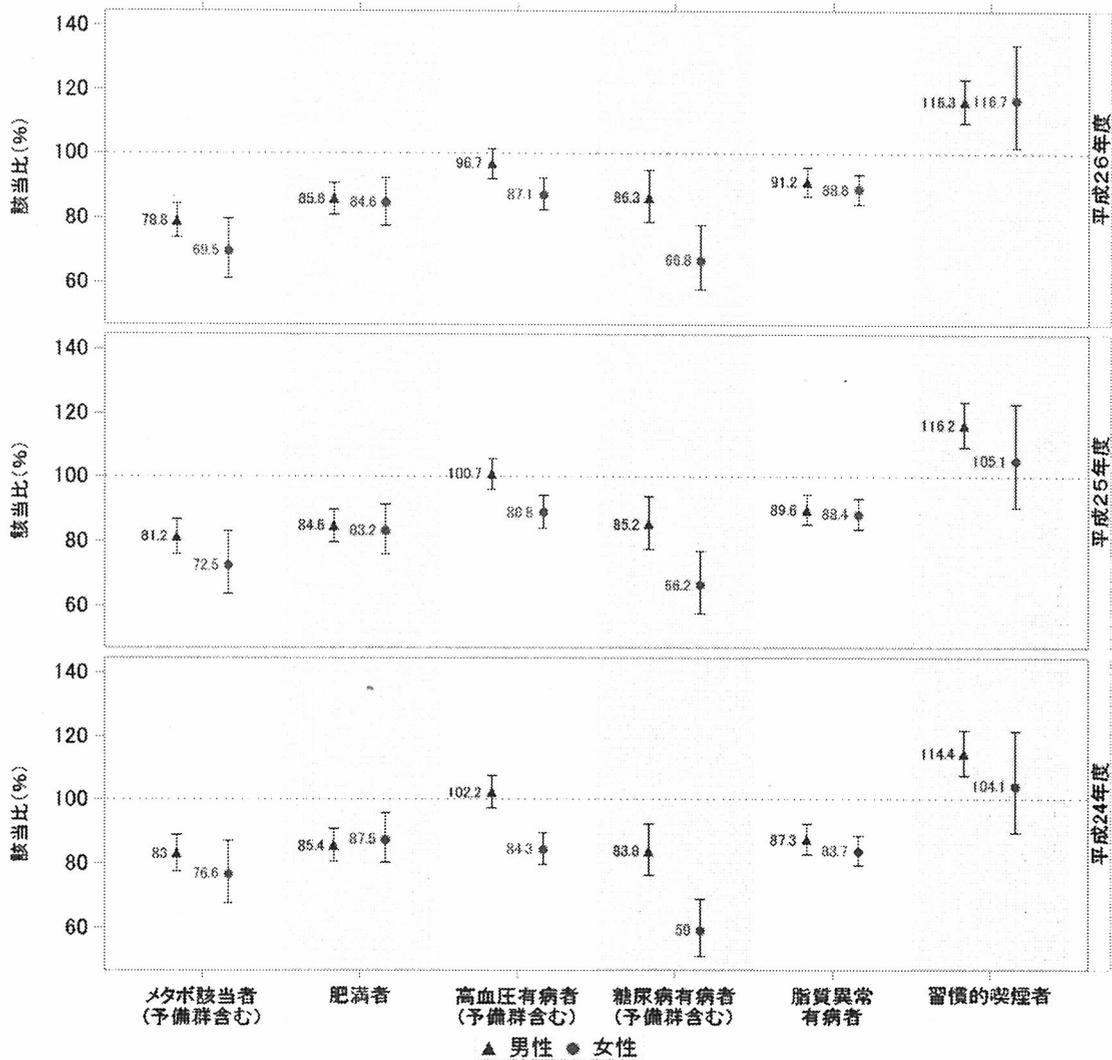
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(飛騨市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体(基準)よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体(基準)よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

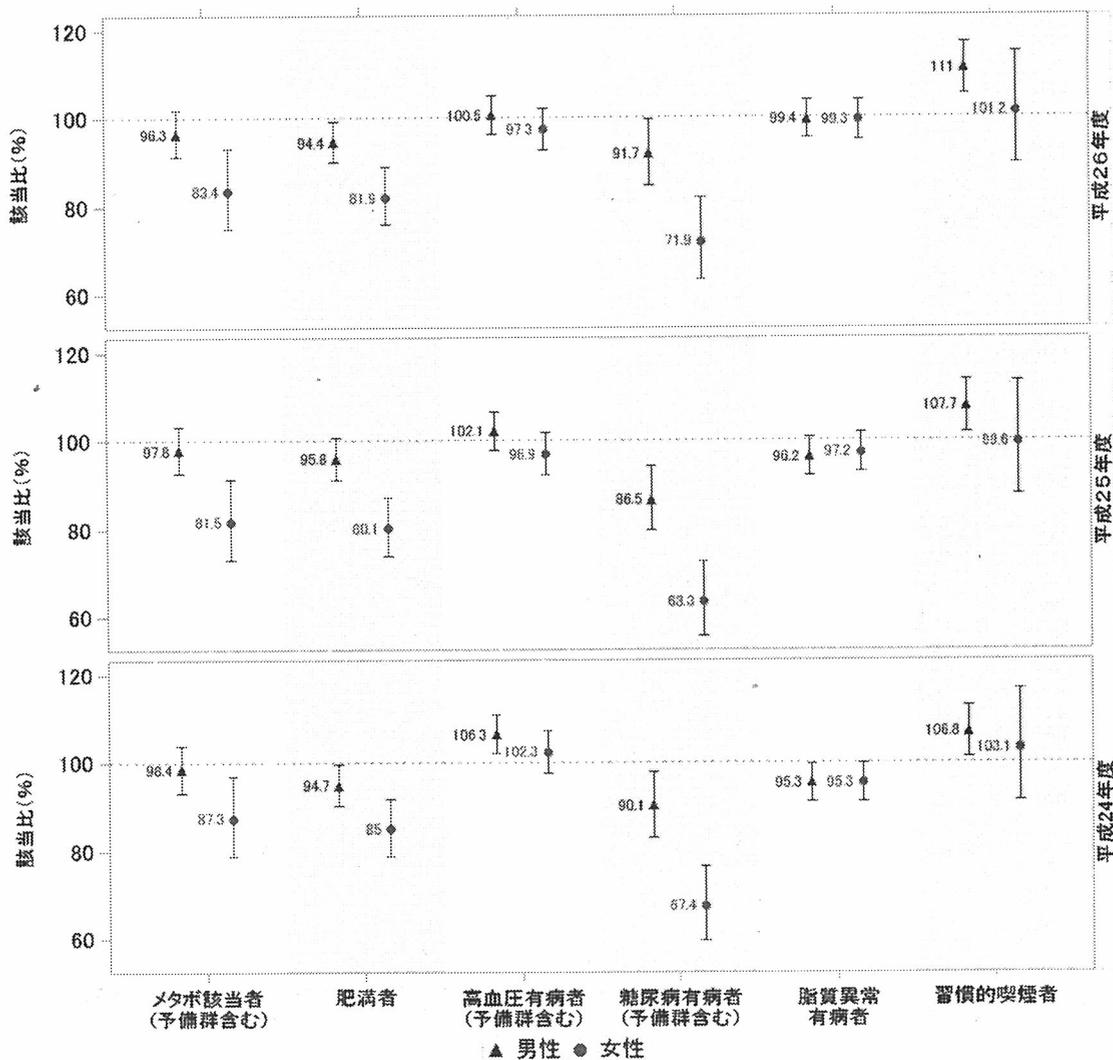
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体(基準)に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体(基準)よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(下呂市)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

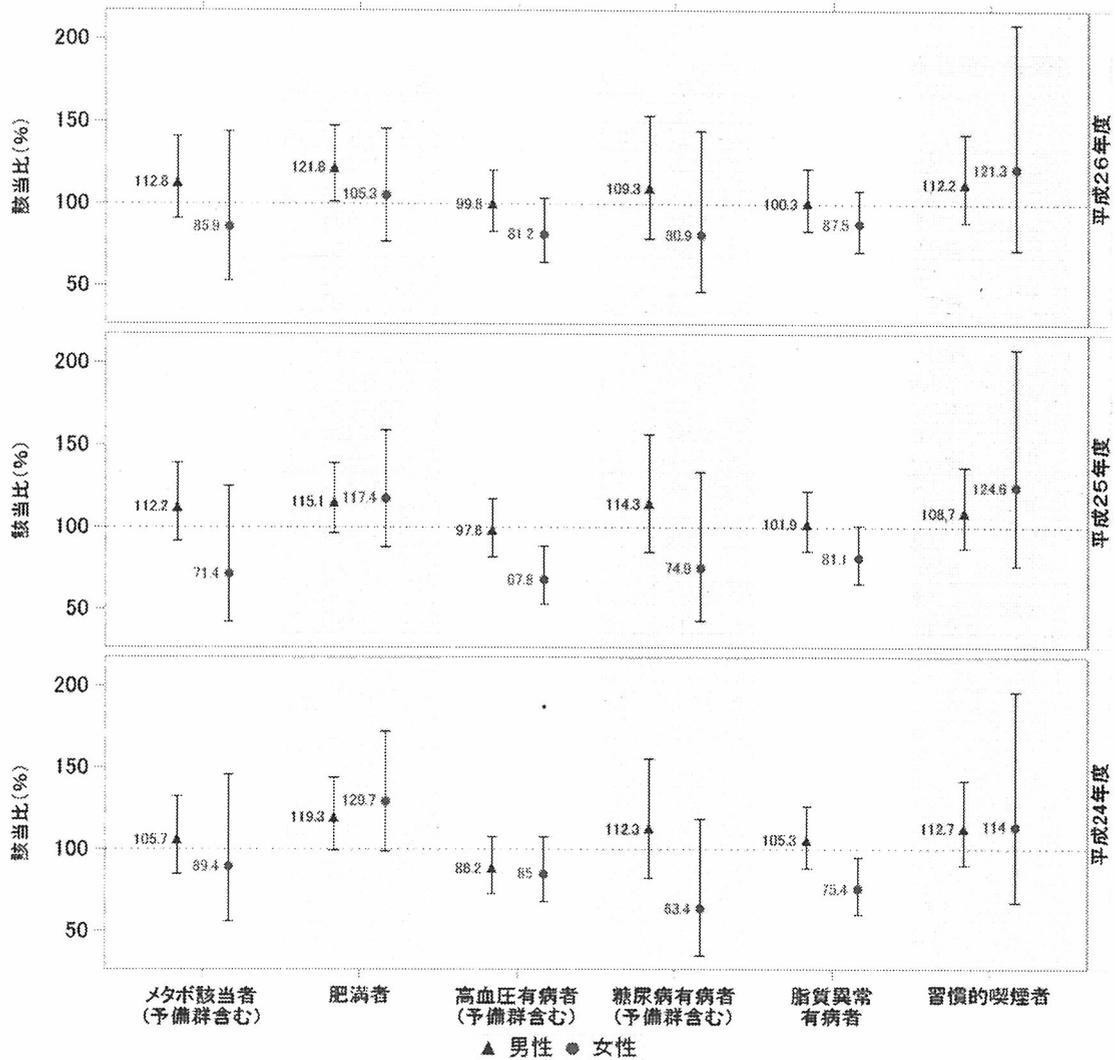
「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが無意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが無意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。

### 同一地域における標準化該当比の比較(白川村)



標準化該当比は実際の該当者数を、統計的な手法を用いて算出した期待者数で除し、これに100を乗じたものである。この該当比が100より大きい場合は、当該市町村の該当率が県全体（基準）よりも高いことを示している。逆に、100より小さい場合は、該当率が県全体（基準）よりも低いことを示している。また、グラフ中の縦軸の大きさは95%信頼区間を表し、これらのデータを基に結果を4段階に区分した。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限<100」の時・・・有意に低い。

「標準化該当比<100」かつ「信頼区間の上限>=100」の時・・・低いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限<=100」の時・・・高いが有意ではない。

「標準化該当比>100」かつ「信頼区間の下限>100」の時・・・有意に高い。

なお、「有意に高い」とは、サンプリング誤差の影響等を考慮しても、岐阜県全体（基準）に対して十分に高いと考えられることを表している。「高いが有意ではない」とは、岐阜県全体（基準）よりも高い結果であるが、サンプリングの誤差等の影響を受けた可能性があり、その確実性は低いことを表している。